4. 震災写真から見る神奈川県の今・昔（70 地点）

2.(3)で述べたとおり、次の考え方に沿って県内 70 地点の震災写真を選定しました。

【選定の考え方(再掲)】

1) 関東大震災の被害により、(一般的に多く報道される火災以外にも)多様な自然現象が引き起こされた被害
2) 現在の神奈川県で次に大規模な地震が生じた場合、再び起こりうる事象
3) 地域の象徴的な施設や場所が撮影されている写真
4) 県内のできる限り広範な地点から選定

なお、撮影機器が広く流通していない時代背景において、関東大震災直後に写真が撮影された地域は限定的であるという前提の中で、可能な限り県内の広範囲かつ多様な被害様相となる現場を選定しました。

震災当時の被害の状況と現在の状況を比較して、過去の歴史を知り、将来の災害に備えた防災・減災対策に取り組むきっかけとしましょう。

選定した震災写真の現場の分布図は、下図のとおりです。

図 4-1 選定した 70 の震災写真の位置図

※ 地理院タイルに市町村境界、遺構の位置を追記して掲載
※ 市町村境界は、「国土数値情報（行政区域データ）」（国土交通省）https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html を活用

アクセス性については、以下の基準で評価を行いました。

・写真の撮影場所が、鉄道駅から 500m 以内なら「A」
・写真の撮影場所が、バス停から 500m 以内なら「B」
・写真の撮影場所が、鉄道駅・バス停どちらからも 500m～1km 離れている場合は、「C」
・写真の撮影場所が、鉄道駅・バス停どちらからも 1km 以上離れている場合は、「D」

震災当時の写真については、以下の資料から引用しています。一部の資料は神奈川県立図書館にて閲覧・借用可能です。

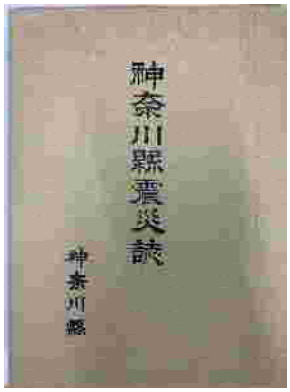
① 大正十二年九月一日 大震災記念写真帖

【8/24 現在、貸出不可】
著者：桝井照蔵 編
出版者：神奈川県震災写真帖頒布事務所
出版年：1925

② 関東大震大火記念写真帖（復刻版）

【8/24 現在、貸出不可】
著者：岡田紅陽 著
出版者：斉藤猪一郎
出版年：1986

③ 神奈川県震災誌



【8/24 現在、貸出不可】
著者：神奈川県
出版者：神奈川県
出版年：1927

④ 関東大震災写真帖

【川崎市立図書館蔵書】
著者：日本聯合通信社 編
出版者：日本聯合通信社出版部
出版年：1923

⑤ 鎌倉震災誌

著者：鎌倉町 編
出版者：鎌倉町
出版年：1930

⑥ 大正大震火災誌

【8/24 現在、貸出不可】
著者：神奈川県警察部 編
出版者：神奈川県警察部
出版年：1926

また、以下の震災当時と現在を比較する位置図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」（©谷 謙二）[113]により作成したものです。

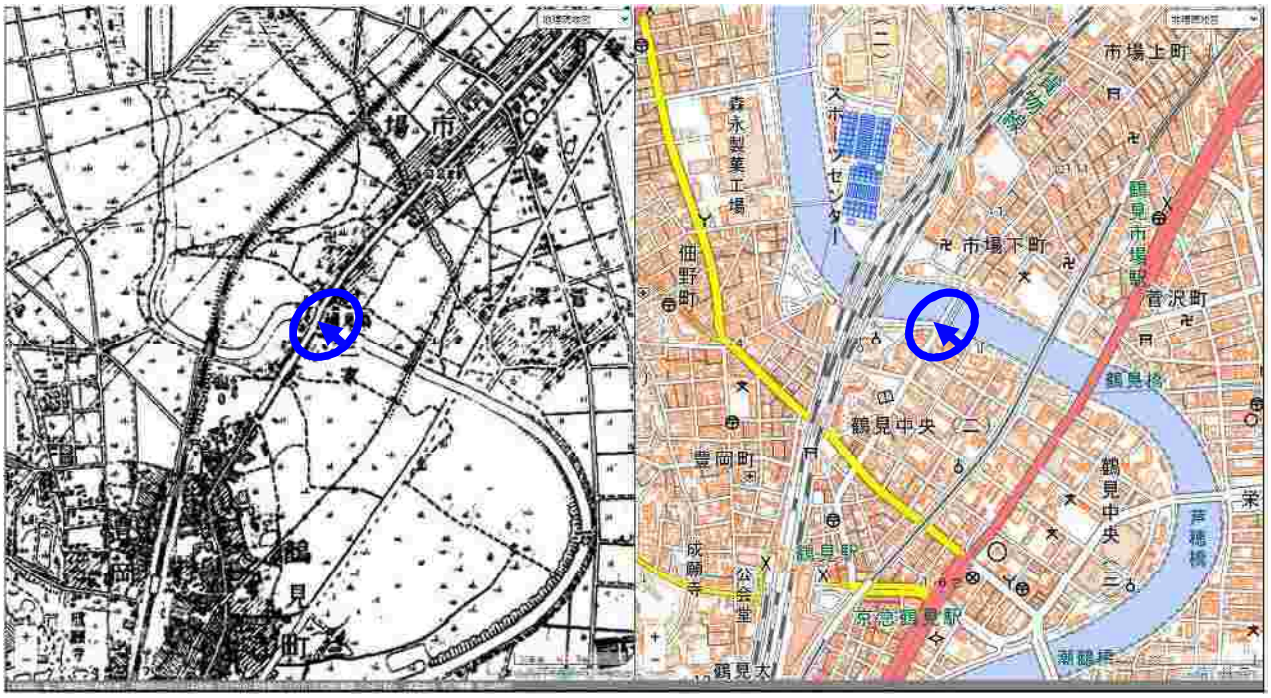
[113] 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」（©谷 謙二）（2023.8.17 閲覧）
https://ktgis.net/kjmapw/

(1)鶴見橋(横浜市鶴見区鶴見中央地先)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	周辺一帯の被害も軽微で、鶴見橋は少し沈下した程度ですみました。現在、架け替わった鶴見川橋が同じ場所にあります。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	京浜国道中鶴見川に架せるものにして重要なる橋梁の一なれ共幸にして此地方一帯震災の程度軽微なりし為め本橋も亦図に見る如く僅かに橋台の沈下せるに過ぎず為め交通に支障なきを得たり
備考	写真では、橋梁の下が水域ですので、鶴見橋の下流右岸側から上流左岸側を向いて撮影したものと推察されます。当時も橋のすぐ脇に管路が見えるため、当時と同じく手前の管路越しに撮影しました。

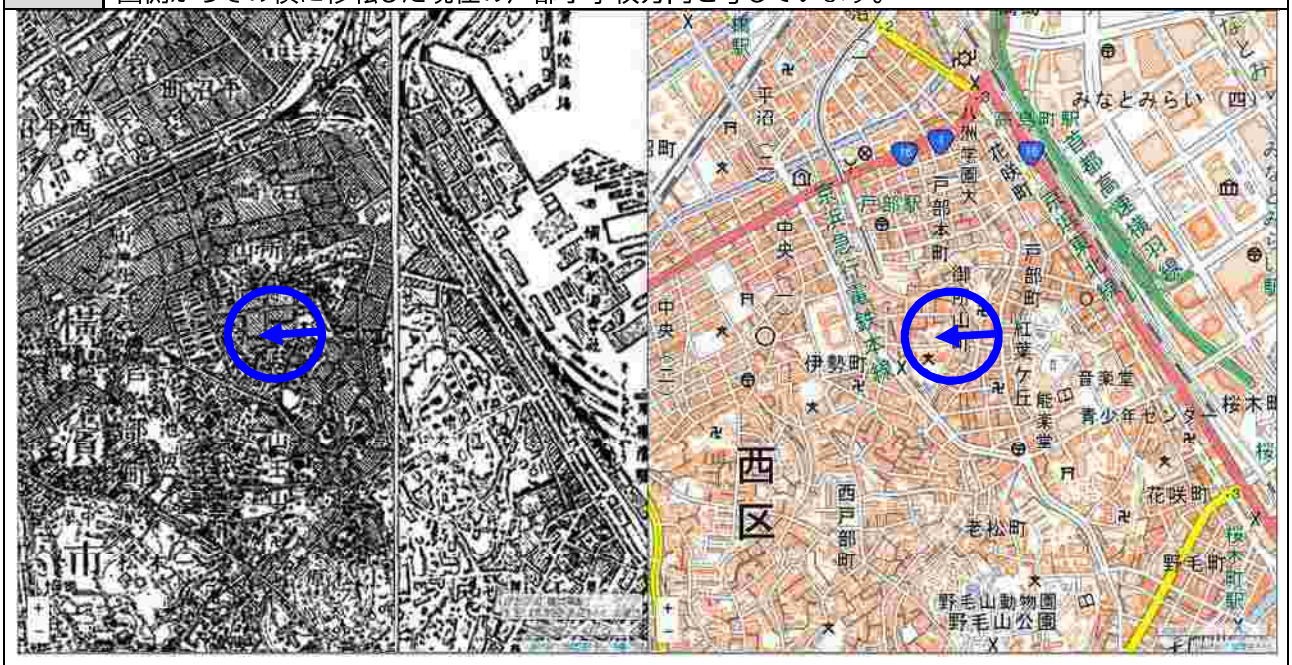
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（2）横濱市戸部尋常小学校（横浜市西区御所山町）

被害	避難	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時の戸部小学校は地震により倒壊し、その後の火災によって廃墟となりました。写真奥の丘陵方面にはほとんど建物が失われた様子が見えます。現在の写真は、当時の小学校があった御所山第二公園側からその横に移転した現在の戸部小学校方向を写しています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	震災と同時に横浜市内数万の小学児童は其家庭及び学校共に亡ぼされ而も頻々たる余震は如何に彼等の幼き心を脅かせし事よ図は之等可憐なる児童の不安の中にも学業にいそしむ光景なり
備考	当時の戸部尋常小学校は、現戸部小学校より北側、現在の御所山第二公園付近一帯にありました。写真奥に丘陵地が見えることから、小学校東側から西に向かって撮影したものと推察されます。

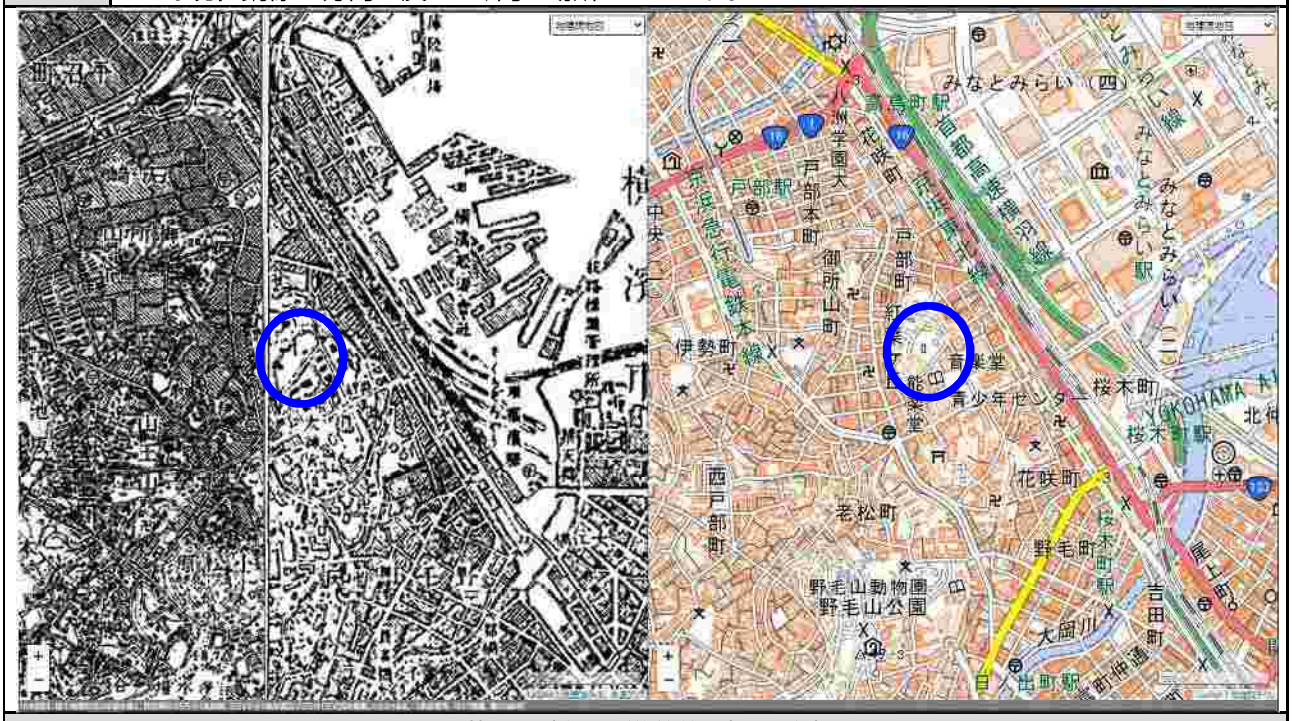
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（3）井伊掃部頭銅像（横浜市西区紅葉ケ丘）

被害	地盤変動	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	掃部山公園にある井伊直弼の銅像は、倒壊はしませんでしたが、台座に対して約30度程度回転しました。現在銅像の方向は戻され、同じ場所にあります。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	横浜市掃部山公園にある井伊掃部頭の銅像は地震の為め約三十程度台石と共に回転せり恰も阿鼻叫喚を見るに忍びざるが如く
備考	撮影方向が特定できないため、正面と横からの写真を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(4)神奈川県庁(横浜市中区日本大通)

被害	火災	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	神奈川県庁周辺では多くの建物が全壊し、当時の県庁舎は火災の被害を受けて、建物構造部材のみ焼け残りました。県庁の周辺は概ね倒壊、半壊していたといいます。現在の庁舎は震災で被災した庁舎を1928(昭和3)年に建て替えたものです。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	建築の壮麗嘗て国府県中に其比を見ざりし神奈川県庁も一朝大震火災に見舞はれては斯の如くになり終れり、図は正面玄関より入りて左手の廊下を眺めたる光景なり
備考	同じ場所での撮影は困難なため、庁舎前景を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（5）横浜市本町通（横浜市中区本町）

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	横浜郵便局、生糸検査所など市内の官公庁舎の多くも倒壊被害を受け、瓦礫が道路を塞いでいます。現在、建て替わった本町交番や横浜港郵便局など多くの公共施設が建ち並びます。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	（抜粋）左端の鉄柵は神奈川県警察部のもの、その前方倒壊せるは横浜郵便局、右端は生糸検査所の残骸なり
備考	本町通上で、倒壊した横浜郵便局（現横浜港郵便局：郵政博物館HPより）を左奥にみる位置であることから、県庁～議会棟付近の本町通上で、南東向きに撮影したものと推察されます。同様の位置から現状を撮影しました。

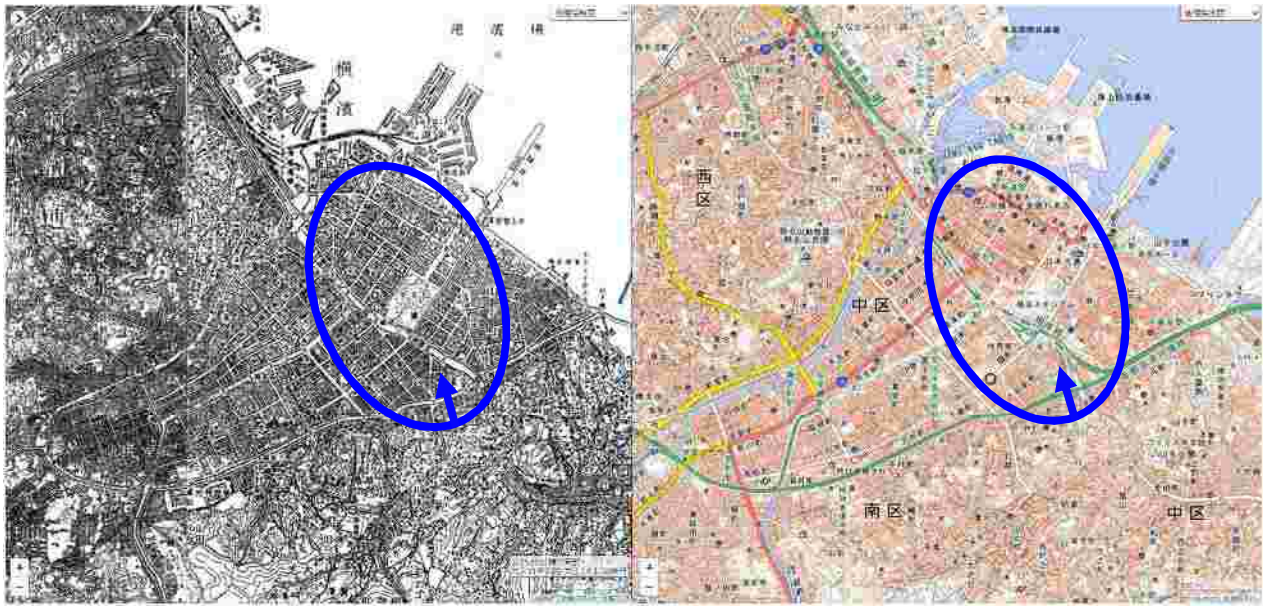
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（6）地蔵坂より亀の橋方面を望む（横浜市中区石川町）

被害	火災	ｱｸｾｽ性	A	出典	関東大震大火記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	地蔵坂から眺める周囲一帯の建物が火災により焼失しました。現在は、撮影場所からは中村川の水面が見えないほど多くの高層ビルが建ち並んでいます。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	万代、不老、翁、扇、寿、松影、吉濱の各町は四周を河川に囲まれた一区画で、震火に際し各橋梁が殆ど破壊焼失したため、住民の混乱其極に達し、遂に多数の死傷者を生じた。図は地蔵坂より亀の橋を隔て、望んだ其焼跡である。
備考	地蔵坂上からはビルが建て並び亀の橋を望むことができないため、山手イタリア山庭園から亀の橋方向を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(7)横浜港桟橋(横浜市中区海岸通)

被害	港湾被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	横浜港大さん橋は一部分を残し、火災によって多くの建物が焼失被害を受けました。一部残存した港で避難民の搬送や物資輸送が行われました。現在は世界各国のクルーズ船も寄港する客船ターミナルとして利用されています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	数万噸の巨船を横付けし得べき大桟橋も火災の為め其大部分を焼失せしが幸にも辛うじて使用し得べき一部分残存し為め避難民の輸送に救恤品の陸揚げに多大の便宜を得たり、図は当時の光景及税関監視部海務係の残骸を示す
備考	「税関監視部海務係の残骸」と記されていることから、当時の税関桟橋⇒現在の大桟橋ふ頭を撮影したものと推察され、その方向は、写真奥に船舶が写っていることから、陸側から北方向を向いているものと推察されます。

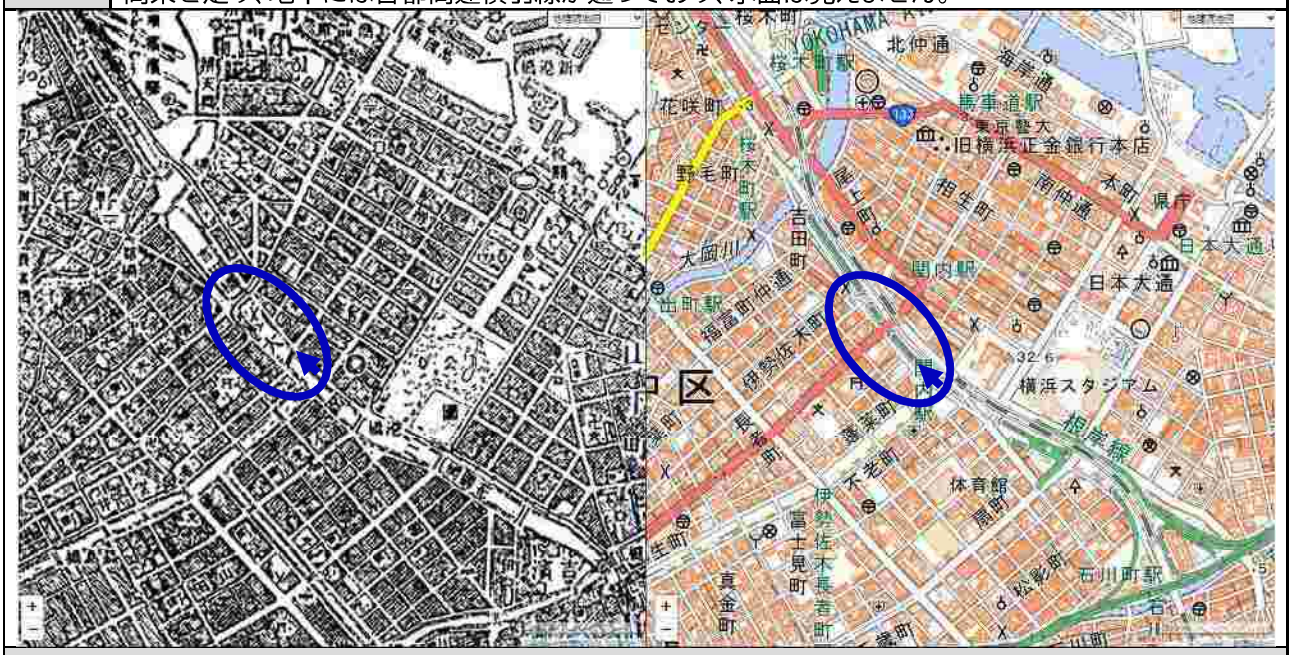
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（8）豊国橋（横浜市中区港町）

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時の豊国橋が落橋し、周囲は火災による被害も多数発生しました。現在はJR京浜東北・根岸線が高架を走り、地下には首都高速横羽線が通っており、水面は見えません。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	横浜市の所謂関内と関外とを連絡する重要なる橋の一なるも地震と同時に図の如き状態となり渡る事能はず為めに対岸には公園の如き避難所有りしにも不拘此附近河岸一帯に無数の焼死者を生ずるに至れり
備考	当時の豊国橋（現在は関内駅南東側で橋はない）の奥に吉田橋が見えることから、豊国橋から北西を向いて撮影したものと推察しました。

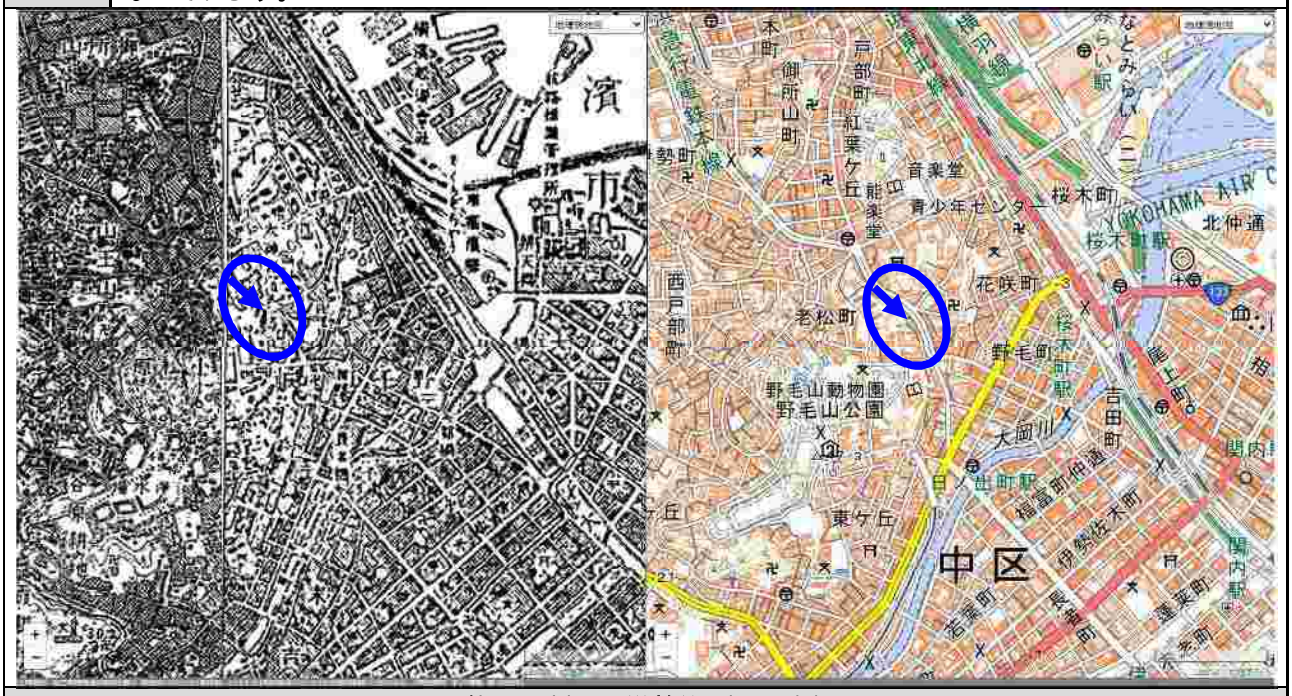
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（9）野毛坂（横浜市中区野毛町周辺）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	野毛坂は当時、両側を斜面に挟まれた道路でしたが、がけ崩れにより、土砂の流出、斜面上の家屋の倒壊などの被害が発生しました。現在も擁壁は各所に見られますが、マンション等が建ち並ぶ一角となっています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	横浜市戸部方面より伊勢佐木町方面に出づる唯一の捷路たりし野毛坂は数丈の掘り割なりし為め地震と同時に図の如き崖崩れを生じ物凄き有様となれり
備考	当時の写真では、左側により多くの崩壊土石がたまっていますのでこちらのほうがより大きく崩れたものと思われます。現在の地形を見ると道路西側は急崖に近接していますが、道路東側は急崖まで少し離れているため、当時の写真の左側が道路北側と推察できます。説明文も「戸部方面より伊勢佐木町方面に出づる・・」とあり北から南をみていることをうかがわせますが、このこととも合致します。

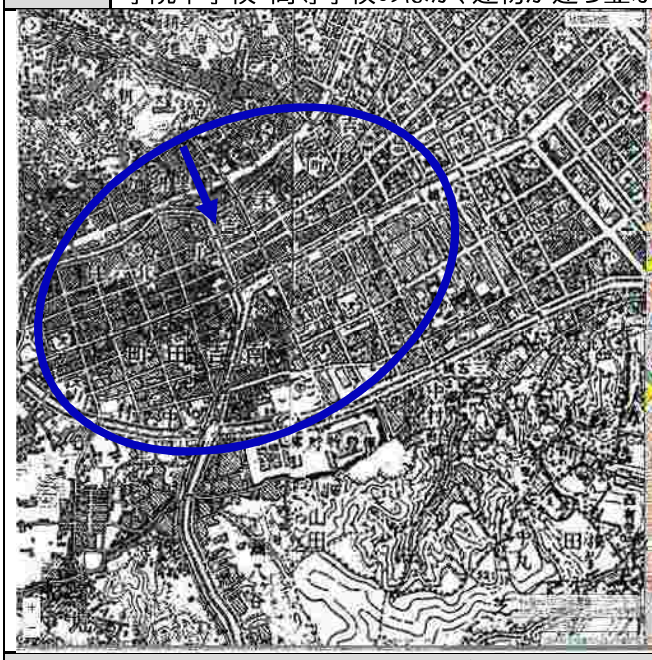
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(10)関東学院(横浜市南区三春台)

被害	建物倒壊・火災	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	当時の関東学院は倒壊した他、周囲一帯焼け野原になった様子が見えます。現在、建て替わった関東学院中学校・高等学校のほか、建物が建ち並ぶ市街地が見て取れます。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	横浜市南太田町の丘上に巍然として聳へたる私立関東学院の倒潰せる有様にして前面に見ゆるは中村町方面の焼跡なり
備考	所在地(横浜市南太田町の丘上)と名称(関東学院)から、現在の関東学院小学校・中学・高等学校と推察できます。倒壊した校舎越しに遠方に丘陵が見えるので、学校付近から南～南東方向を撮影したものと考えられます。

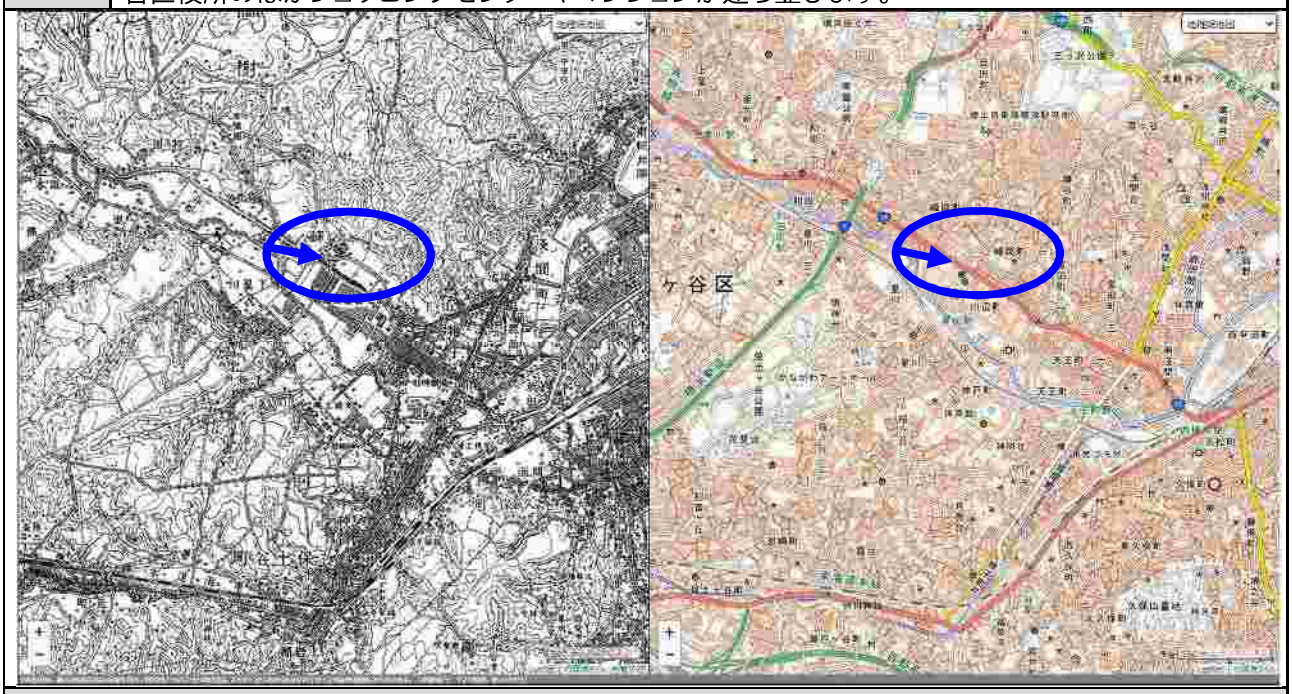
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(11)富士瓦斯紡績株式会社工場(横浜市保土ケ谷区川辺町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	広大な紡績工場がありましたが、レンガ造の工場が倒壊し、多くの死傷者が出ました。現在は保土ケ谷区役所のほかショッピングセンターやマンションが建ち並びます。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	ー
備考	当時の写真左奥に丘陵と崖地があることから、星川付近から東～南東に向かって撮影したものと推察されます。

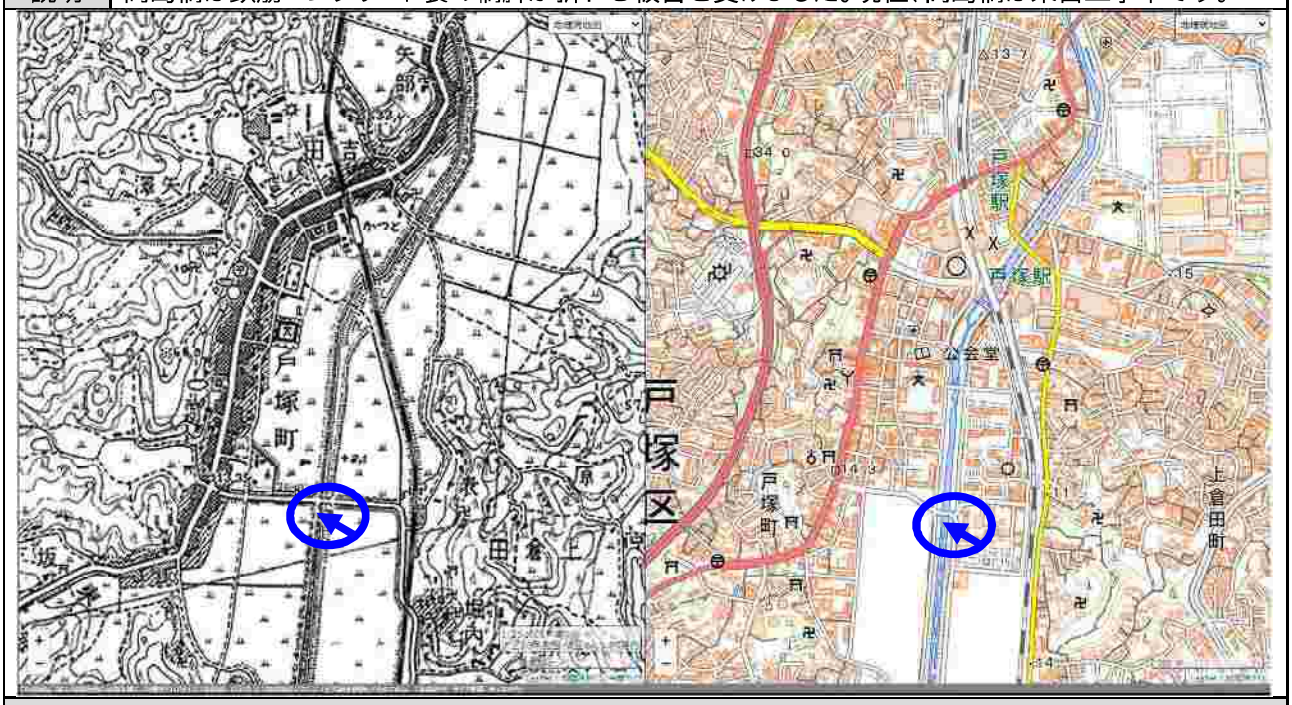
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(12)高島橋(横浜市戸塚区上倉田町地先)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	高島橋は鉄筋コンクリート製の橋脚が折れる被害を受けました。現在、高島橋は架替工事中です。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	戸塚より大船に至る県道も中戸塚町の近傍にて柏尾川に架せる橋にして鉄筋コンクリート製の打込杭より成れる橋脚の挫折の為め斯くの如き被害を生じたり
備考	写真奥の丘陵の麓に集落があることから、柏尾川左岸(東側)から西に向かって撮影したものと推察されます。現在、架け替え工事中のため方角を合わせて、工事用の柵等ができるだけ写らないよう撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（13）戸塚町の隧道（横浜市戸塚区戸塚町）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	今は緩やかな坂道ですが、当時は隧道を設けるほどの斜面があり、斜面の土砂崩れによって、隧道の出入口が塞がれました。現在は切り開かれてトンネルはなく、大きな商業施設のある交通量の多い市街地となっています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	戸塚より厚木に至る県道中戸塚町にある墜道は図の如く其両端入口に崩壊し全く入口を見失ふに至れり
備考	当時のトンネル位置を参考に同じ方向と推察される場所を撮影しました。

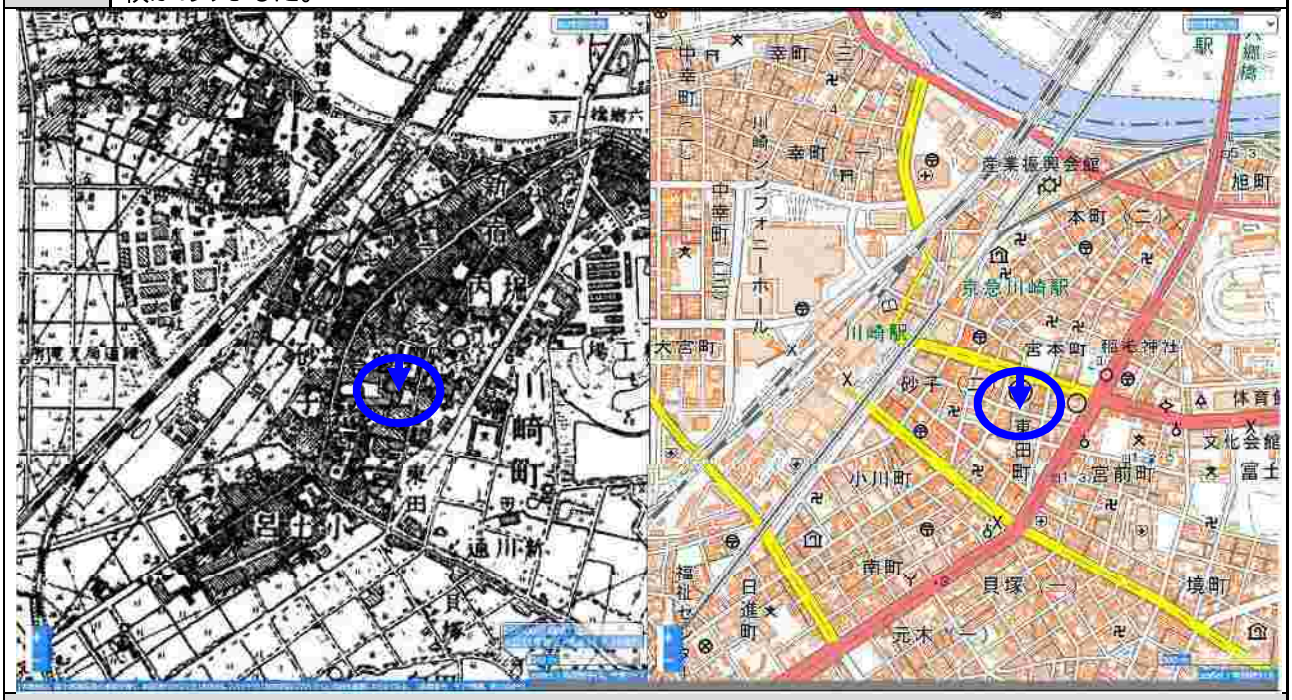
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(14)川崎小学校(川崎市川崎区宮本町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	現在、高層の建物となっている川崎市役所本庁舎となっている場所に、倒壊した川崎尋常高等小学校がありました。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	無残にも破壊されたる川崎尋常高等小学校に於て職員の器具機械類を発掘整理する光景なり
備考	川崎小学校は、震災で講堂及び4教室を残して校舎が壊れたため、川崎区日進町に移転しましたが、その前は砂子一丁目(現市役所)にありました(川崎小学校HPより)。撮影方向は、被害状況から敷地西側の校舎と思しき建物が倒壊したものと推察され、北側の道路から南向きに撮影したものと思われます。撮影場所の特定は困難なため、現在の川崎市役所を撮影しました。

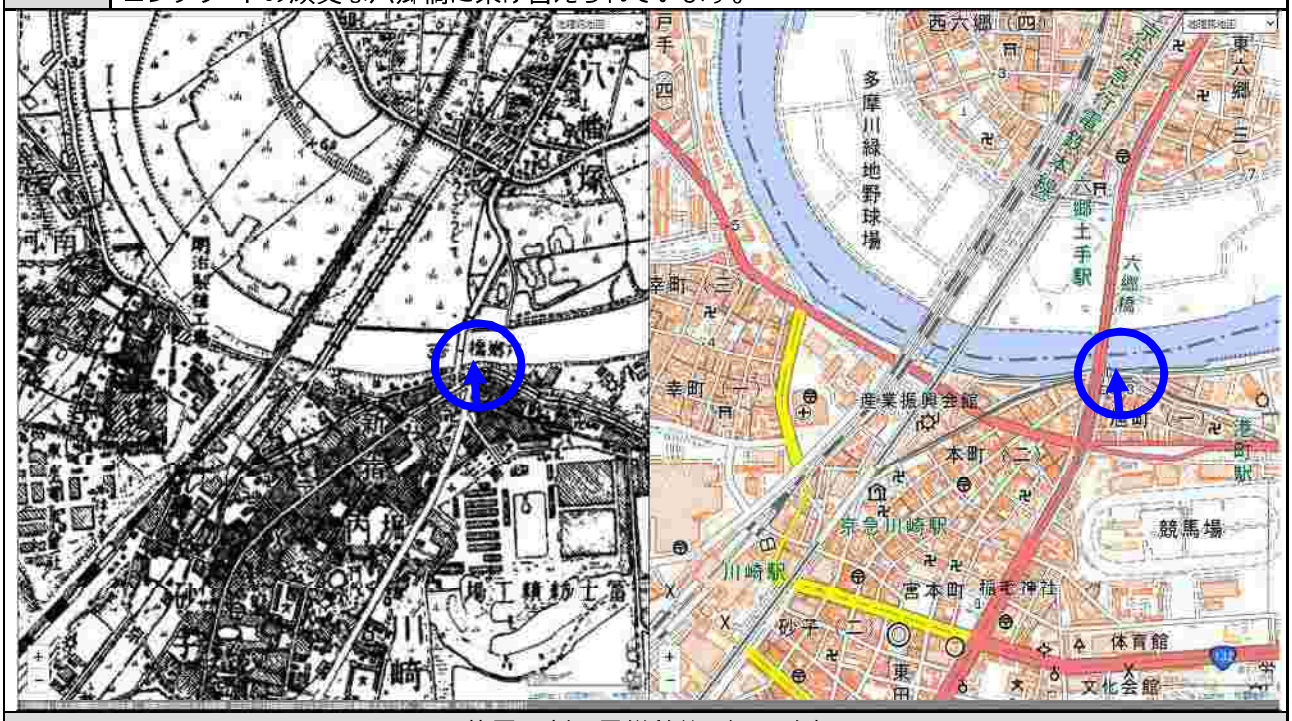
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(15)六郷橋(川崎市川崎区旭町)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	東海道にある六郷橋は、当時も被害が軽微で、応急修理により支障なく通行できました。現在は鉄筋コンクリートの頑丈な六郷橋に架け替えられています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	東京府と神奈川県の境を流るゝ多摩川に架せる六郷橋は幸にして被害軽微なりし為め工兵隊の応急修理に依り交通に支障無きを得たり、図は軍隊警備の下に荷重を制限して通行せしむる光景なり
備考	地図を見比べると、道路線形が若干異なっていることから、現在の六郷橋に架け替える際、若干下流側に移したものと推察されます。当時と同じように川崎市域の右岸下流側から東京都側を向いて撮影しました。

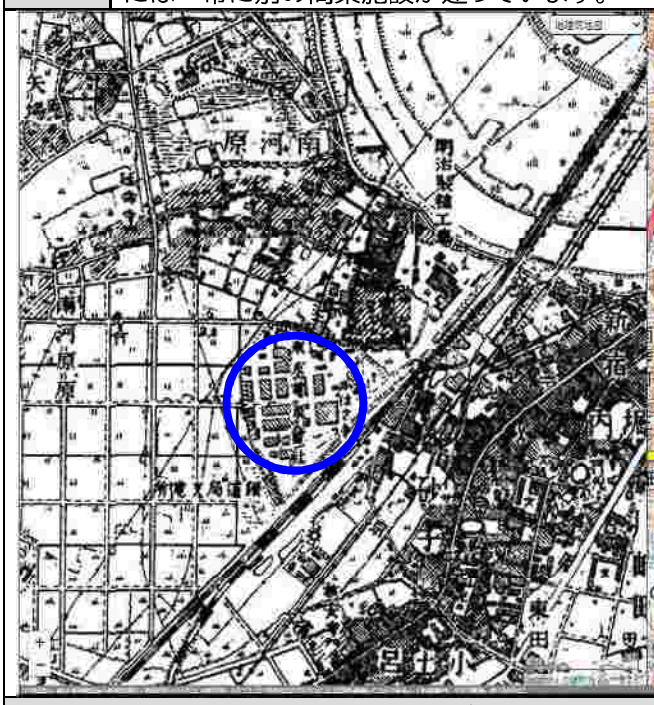
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

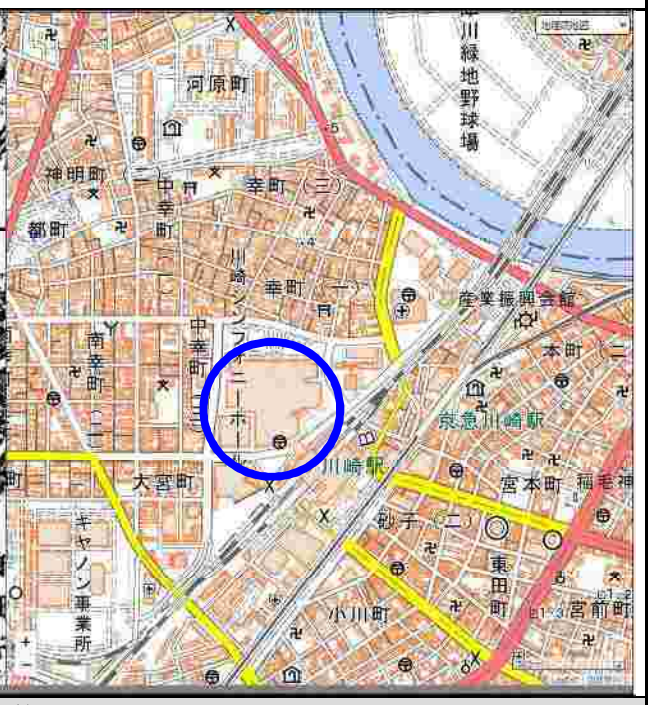
(16)東京電気株式会社(川崎市幸区堀川町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	一部鉄筋コンクリートの3階建ての工場建物の倒壊により多数の死傷者が発生しました。現在、工場には一帯に別の商業施設が建っています。





位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	東京電気株式会社川崎工場の一部鉄筋混凝土三階建工場倒潰の有様にして本工場は斯業界随一の大工場にして折らか従業中の職員も試験所の博士以下多数の死傷者を出せり
備考	写真の建屋の特定が困難なため、工場敷地内の一部施設に含まれる商業施設を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(17)横須賀市諏訪公園より見たる全市の惨状(横須賀市大滝町周辺)

被害	火災	ｱｸｾｽ性	B	出典	神奈川県震災誌

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	横須賀市では地震のあと旧横須賀市役所を含む一帯で火災が広がりました。横須賀市の諏訪公園から旧市役所方面を臨むと、市街地が火災で焼失した様子が見えます。現在は多くのビルやマンションが建ち並ぶ市街地となっています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	横須賀市諏訪公園より見たる全市の惨状
備考	写真左奥の小山を参考に諏訪公園付近の高台から撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（18）横須賀停車場前の山崩れ（横須賀市東逸見町）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	A	出典	関東大震災写真帳

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時、現在より海側にあった横須賀駅横の斜面が崩壊し、多くの方が亡くなった歴史があります。現在斜面にはトンネルが整備され、国道16号線が通っています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	横須賀停車場前の山崩れ
備考	当時の写真奥の尾根の位置を参考に近い構図となるように撮影しました。

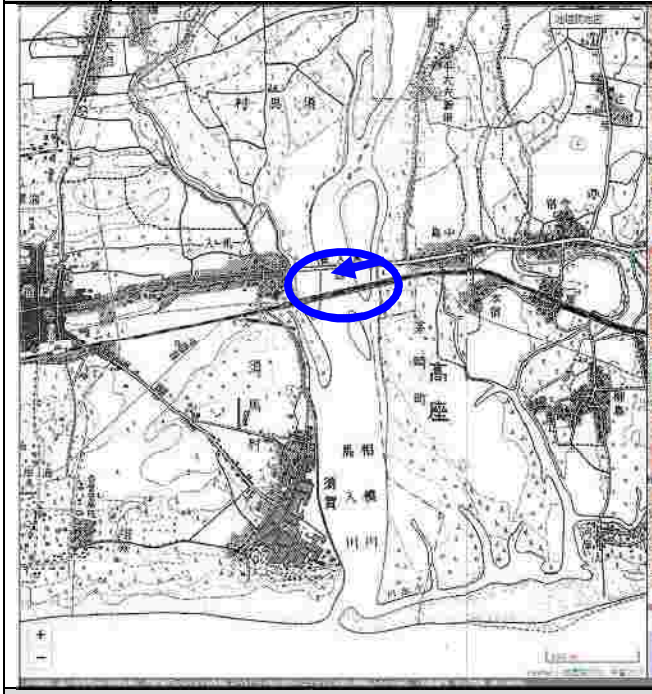
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(19)馬入川鉄道橋(平塚市馬入地先)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	現在のJR東海道線、茅ケ崎ー平塚駅間の馬入橋鉄橋は橋脚の転倒により、全ての橋げたが落下してしまいました。現在は架け替わった橋で多くの電車が行き交います。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	鉄道東海道線茅ヶ崎、平塚両駅間にて相模川に架せる大鉄橋は其被害最も甚だしく総ての橋脚は地面より恰も鋸き裁られたる如くなりて倒れ桁は図の如く一列に墜落せり
備考	道路橋が右側に見えることから、相模川(馬入川)左岸から右岸に向かって撮影したものと推察されます。軌道敷に立ち入ることはできないため、道路橋から右岸下流に向いて撮影しました。

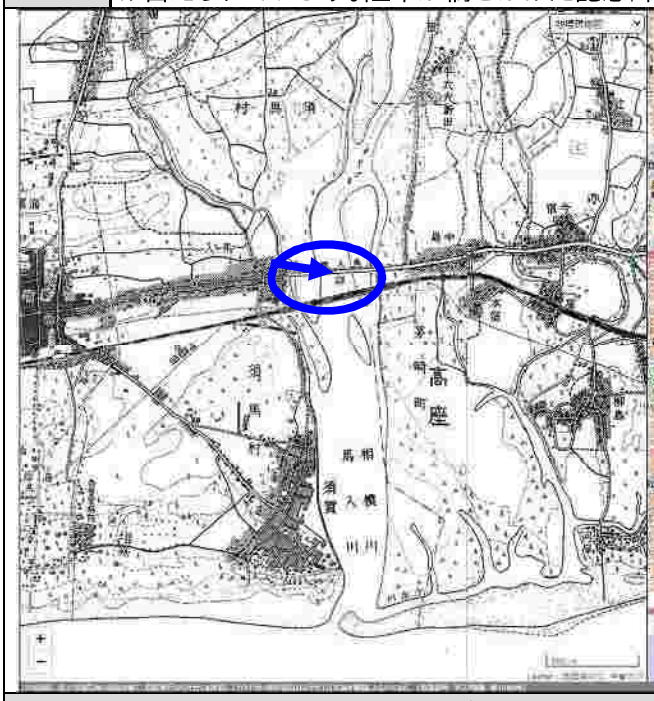
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(20)馬入橋(平塚市馬入地先)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	国道1号線の馬入橋は、架け替え工事中に震災に見舞われ、橋台の転倒や橋脚の基礎部分が傾くなどの被害を受けました。復旧工事が始まるまでの間は渡船を使わざるを得ませんでした。現在、橋は架け替えられています。陸軍が橋をかけた記念碑が残っています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	一号国道の馬入川に架けたる馬入橋は己に古くなれるを以て県にては之が改築を計画し鉄筋混凝土の一大橋梁は正に其工事に着手せられたる際大地震に遭遇せるものにして図は新橋の橋台の被害及び橋脚基礎工事用の鉄筋混凝土桶の傾ける様なり
備考	鉄道橋が写真内に写っていないことから、相模川(馬入川)右岸から左岸を向いて撮影したものと推察されます。現在の馬入橋(道路橋)右岸側から左岸に向かって撮影しました。

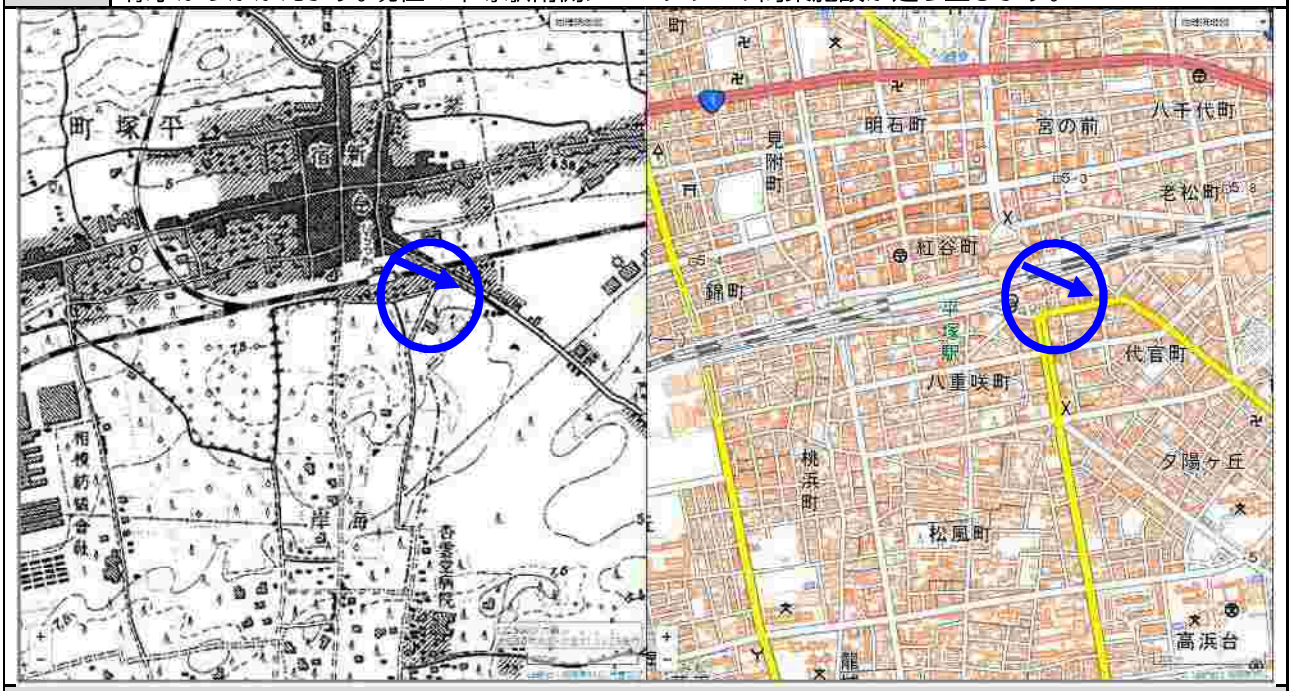
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(21)平塚町(平塚停車場前)(平塚市宝町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	平塚駅前では、木造家屋が倒壊している様子や、屋根は形状を保っていますが、壁面がはがれ落ちた様子がうかがえます。現在の平塚駅南側にロータリーや商業施設が建ち並びます。



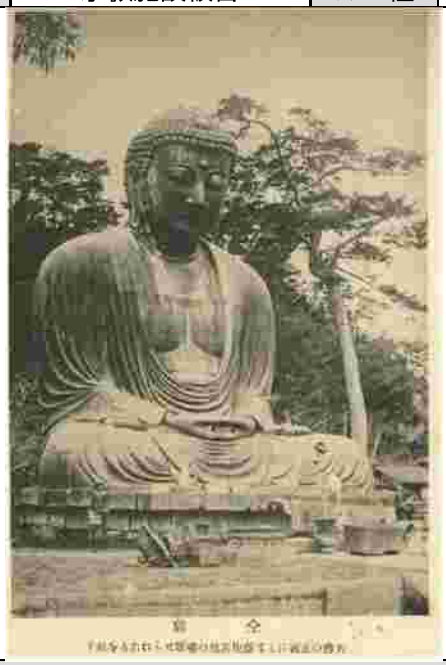
位置図(左:震災前後、右:現在)

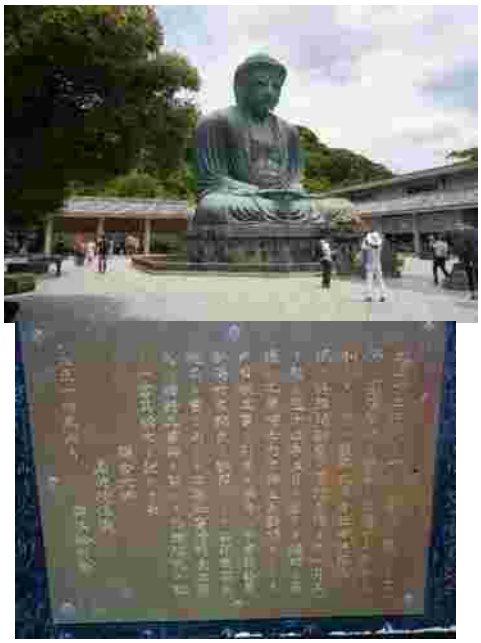
原典説明	平塚停車場前の激震痕を示す
備考	当時の平塚駅舎は地震で倒壊した(平塚市博物館HP「写真でみるむかしの平塚」より)ので、写真は駅舎側から駅前を撮影したものと思われます。撮影場所・詳細な方向は不明のため、駅舎側から南東方向を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（22）鎌倉大仏（鎌倉市長谷）

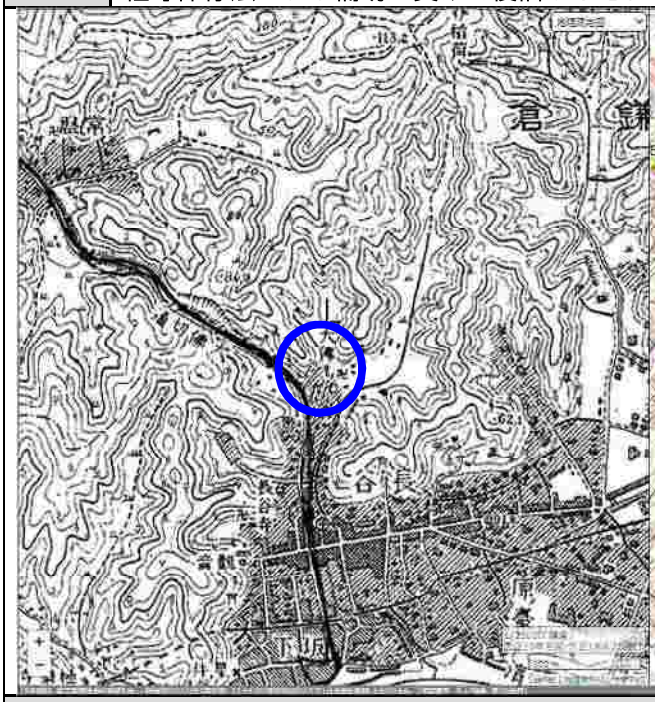
被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖





写真（左：震災当時、右：現在）

説明	高徳院の鎌倉大仏は、台座の一部が崩れ仏身自体も損傷があり傾いたものの倒れませんでした。古社寺保存法による補助を受けて復旧がなされたものが現在の大仏です。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	大仏の正面にして台座其他の破壊せられたるを示す
備考	現在の写真は大仏とその周囲、復興の歴史を示した看板を撮影しました。

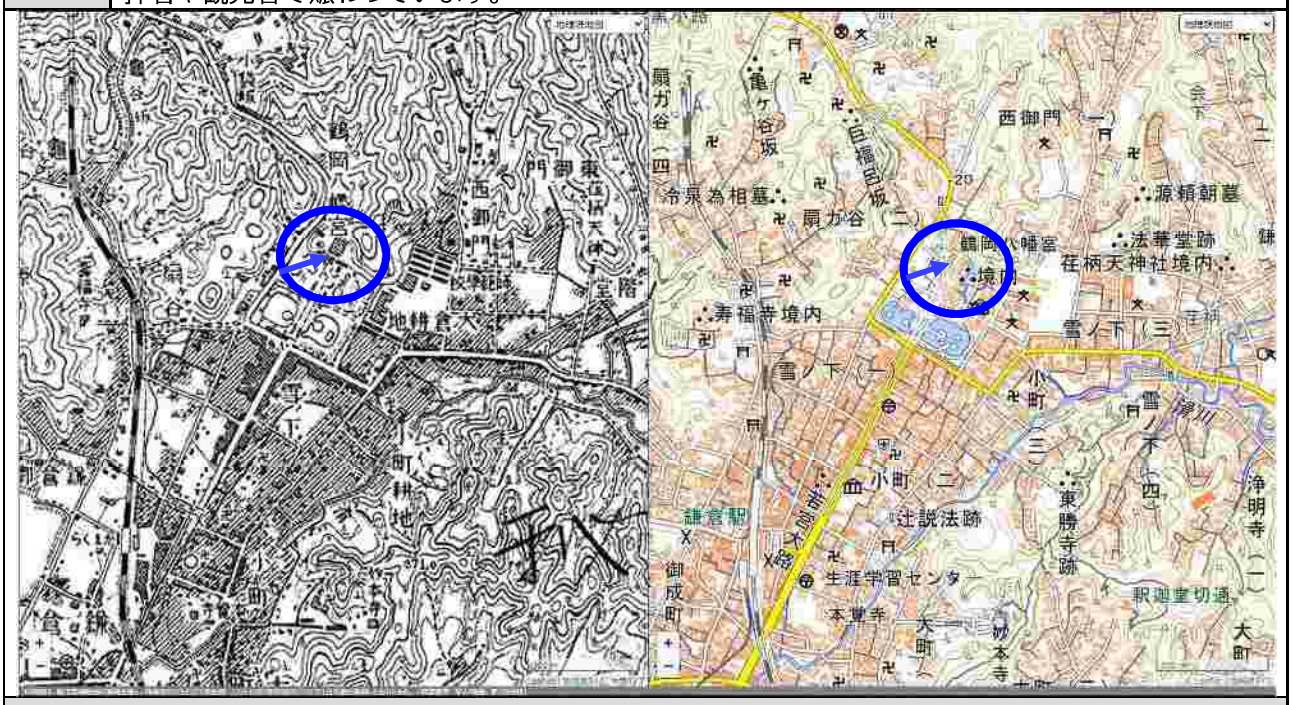
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（23）鶴岡八幡宮（鎌倉市雪ノ下）

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	震災当時、鶴岡八幡宮の倒壊した拝殿（舞殿）が手前に見えています。現在、鶴岡八幡宮は多くの参拝者や観光客で賑わっています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	鎌倉時代以来有名なる鶴ケ岡八幡宮も多大の被害を蒙れり、図は仝社の一部にして潰れたるは拝殿右方なるは有名なる別当公卿の隠れたる大公孫樹なり
備考	当時と同じ構図で撮影しました。

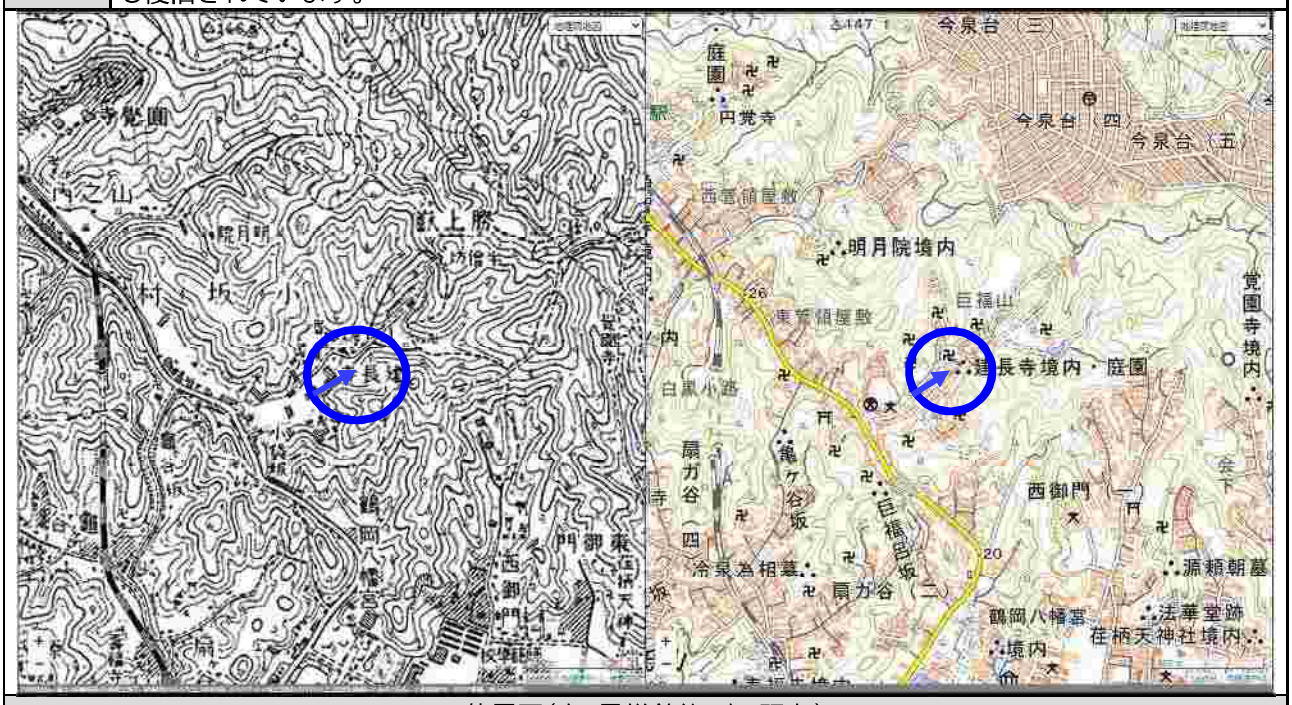
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(24)建長寺(鎌倉市山ノ内)

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	建長寺の被害は甚大で仏殿も倒壊し、当時の写真では仏殿の奥の法堂が見えています。現在は、仏殿も復旧されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	鎌倉建長寺と云へば円覚寺と共に知らぬ者なき古刹なるが之等の貴重なる建築も図の如く破壊せられたるは遺憾に堪へざるなり
備考	写真手前の石畳の方向を合わせて撮影しました。

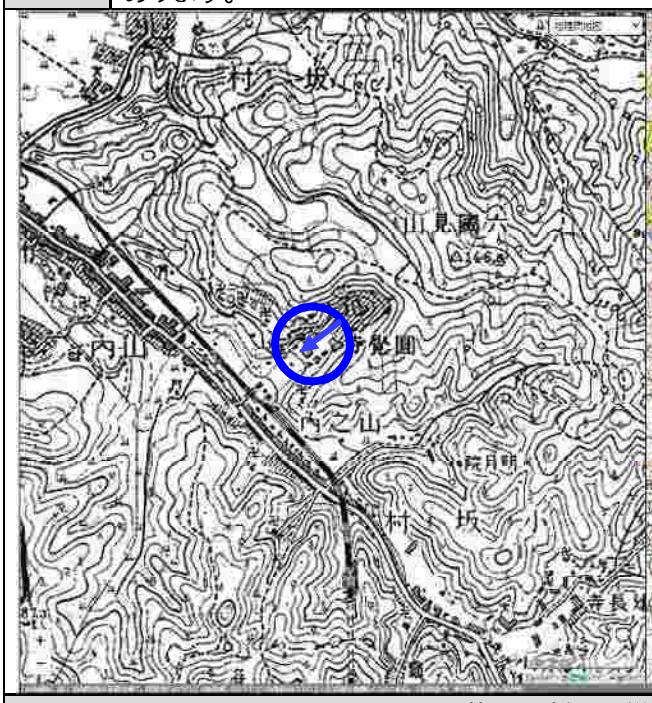
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(25)円覚寺(鎌倉市山ノ内)

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	円覚寺の被害は甚大で山門(三門)以外はほとんど倒壊し、総門は瓦屋根の形状は一部残っていますが、柱が転倒し、倒壊して人が通る空間は完全に失われました。現在は再建されて同じ場所に総門はあります。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	円覚寺総門の倒潰せるを示す
備考	倒壊した総門の手前が階段ではなく平地であることから、境内から撮影したものと推察されます。当時と同様に境内側から撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（26）停車場前の焼跡（鎌倉市小町）

被害	火災	ｱｸｾｽ性	A	出典	鎌倉震災誌

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	鎌倉駅前の建物は倒壊と同時に数箇所で火災が発生し、付近一帯が火の海と化して駅舎も煙に包まれました。現在、駅前は整備され、多くの観光客を迎えています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	惨害の跡　停車場前の焼跡
備考	駅舎の時計台を参考に同じ方向と思われる場所で撮影しました。

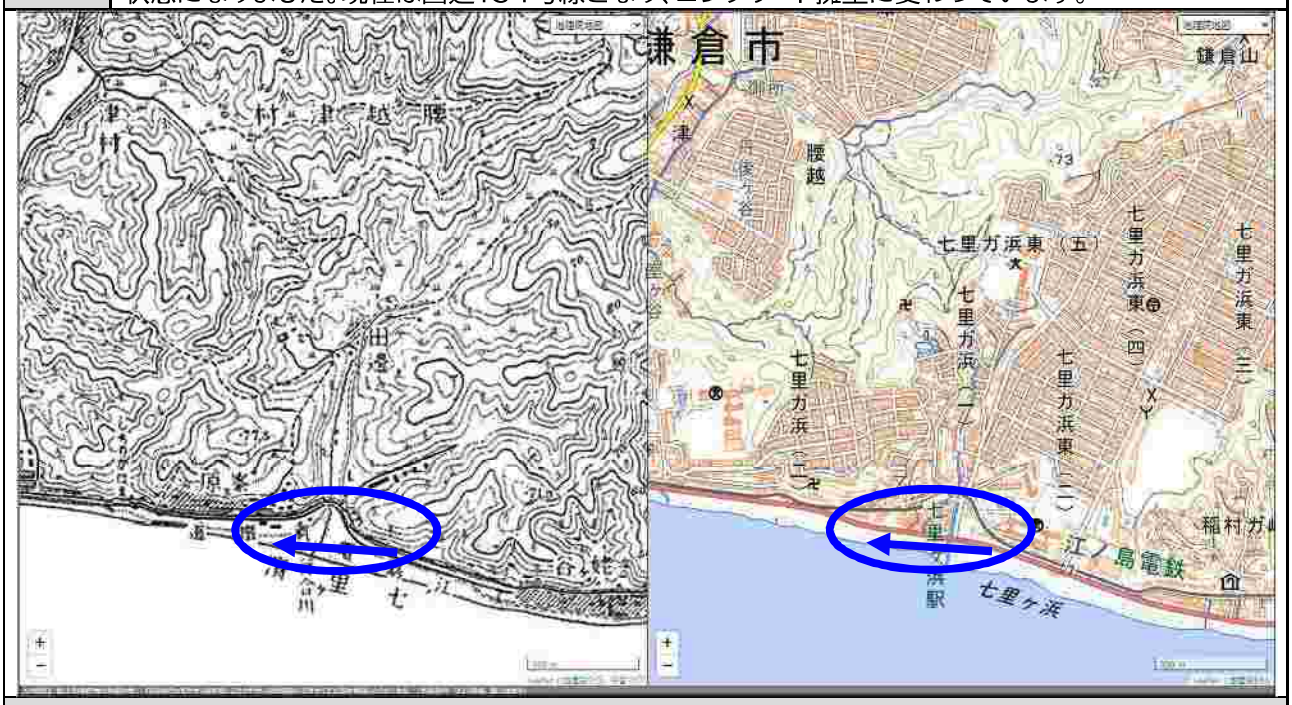
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(27)七里ケ濱(鎌倉市七里ガ浜)

被害	道路被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	当時海沿いを走る七里ヶ浜の県道は、石垣が崩れ、土の斜面が見えています。一時車両が通れない状態になりました。現在は国道134号線となり、コンクリート擁壁に変わっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	鎌倉、江の島間に於ける行楽の地たる七里ケ浜も図の如く県道の石垣崩壊し一時は交通杜絶するに至れり左手に見ゆるは江の島なり
備考	写真奥左側に江ノ島、その手前に岬があることから、七里ヶ浜駅付近の海岸から西側に向かって撮影しました。

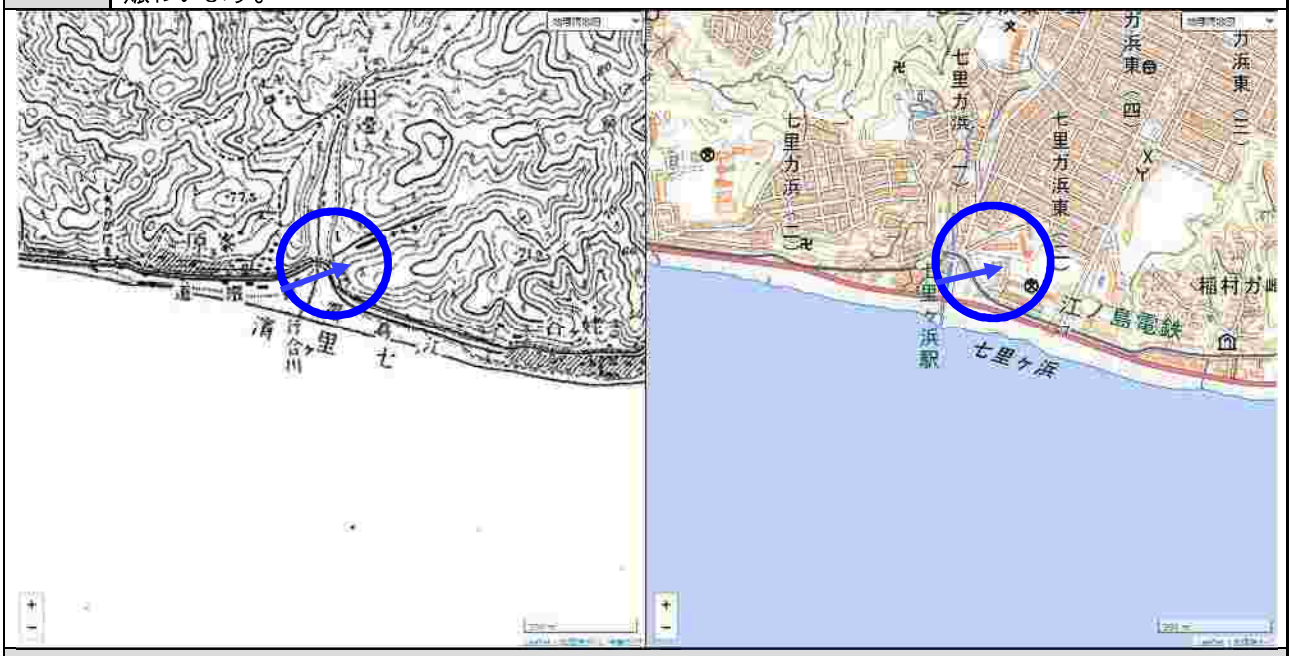
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（28）倒潰せる七里ヶ浜（鎌倉市七里ガ浜周辺）

被害	津波	ｱｸｾｽ性	A	出典	関東大震災写真帳

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時からすでに行楽地であった七里ヶ浜ですが、地震と津波の影響で、倒壊・流失した建物が多く見られます。現在は市街地として整備され、海水浴場やサーフスポットとしてシーズンには多くの人で賑わいます。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	倒潰せる七里ヶ浜
備考	写真右奥の小山と谷を挟んで左の丘の形から、行合川を臨む方向と推察して近い方向を撮影しました。

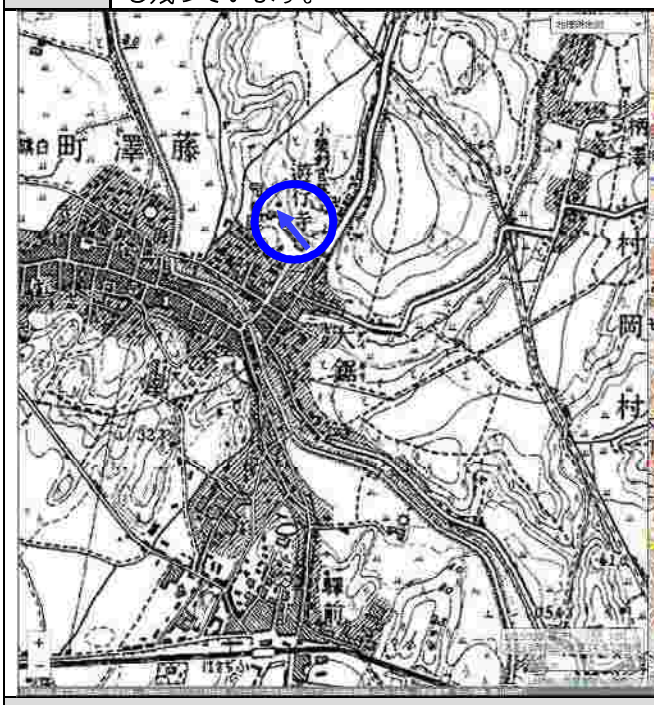
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

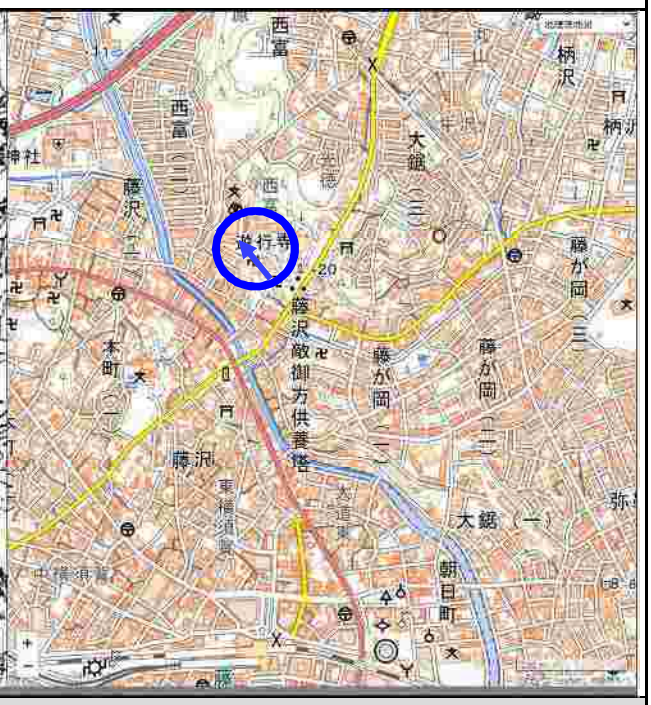
（29）遊行寺中雀門（藤沢市西富）

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	遊行寺の中雀門は転倒しましたが、形状は概ね崩れませんでした。引き起こして補修したものが現在も残っています。





位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	藤沢町にある時宗本山遊行寺は其建築古き丈け被害の程度も甚だし図は仝寺内の有名なる中雀門なるが構造の堅牢なりし為め斯くの如く転覆せるも尚ほ其形を崩さず
備考	中雀門を正面から撮影しました。

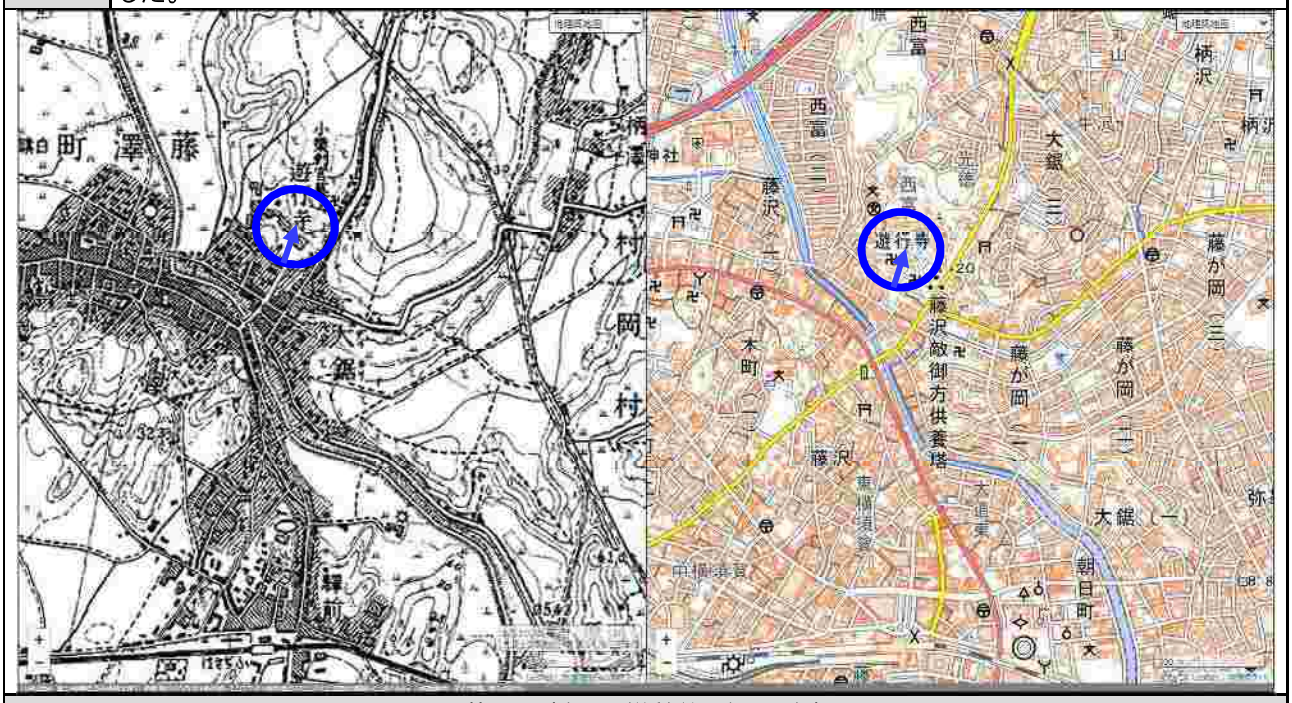
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（30）遊行寺本堂（藤沢市西富）

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時の写真右側に遊行寺の本堂が倒壊しました。大書院や御番方等、多くの建物も同時に倒壊しています。遊行寺では震災により僧侶が亡くなりました。現在の本堂は、1937（昭和12）年に復興されました。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	右方全く崩壊せるは遊行寺本堂なり
備考	当時の本堂が倒壊した写真とのことですので、復興された本堂を正面から撮影しました。

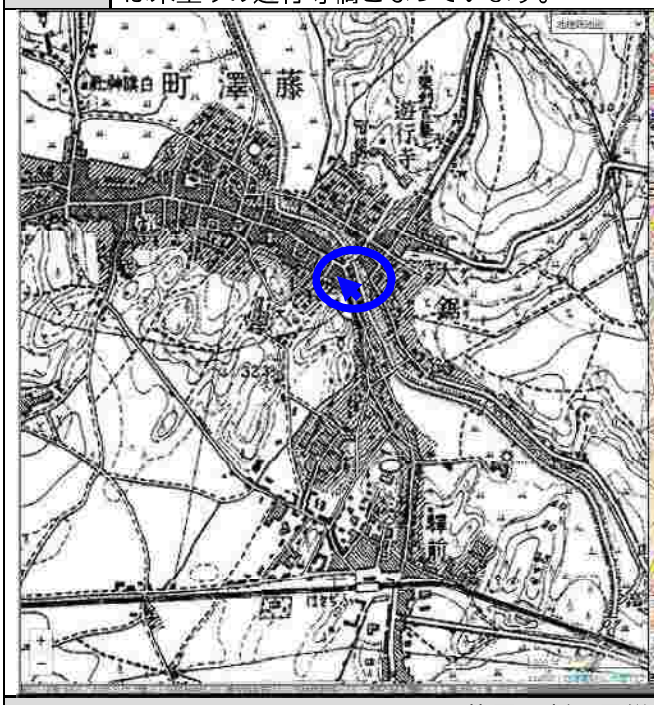
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(31)大鋸橋(藤沢市西富)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	落橋した大鋸橋は原型が残ったため、応急復旧により通行可能となりました。周囲の人家は倒壊しています。大鋸橋から藤沢駅の間ではがけ崩れにより人家が川中に転落する被害がありました。現在は朱塗りの遊行寺橋となっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	藤沢町地内の国道に架せる橋梁にして図の如く墜落せしも原形を存せる為め支保工を施して通行するを得たり前後人家倒壊の様より見るも如何に藤沢町の被害の激甚なりしかを想像し得べし
備考	橋脚にあたって白波がたつ様子と、境川の屈曲から、橋の下流側から上流向きに撮影したものと推察されます。現在の遊行寺橋(大鋸橋)を同様の向きで撮影しました。

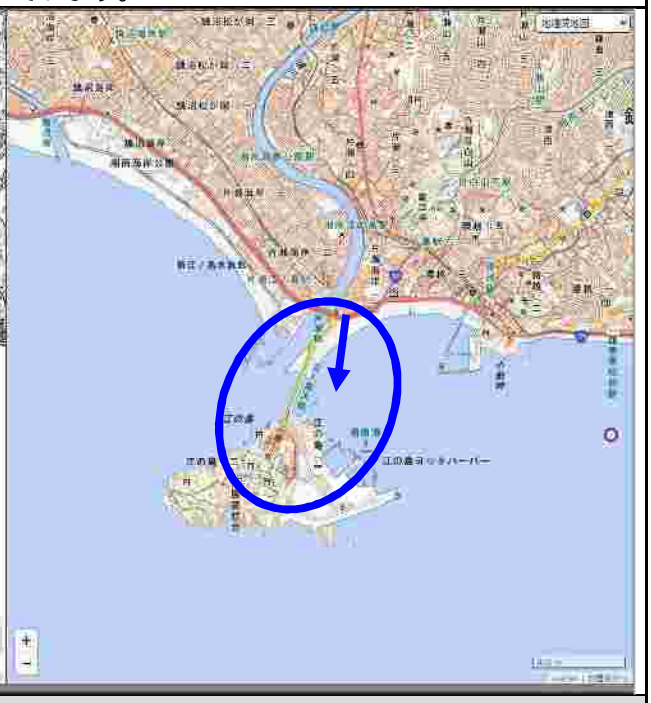
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(32)江の嶋(藤沢市江の島)

被害	津波	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	江の島の内部は揺れによる被害は比較的軽微でしたが、対岸を結ぶ桟橋は津波の被害で失われています。現在は海水浴場として多くの人で賑わっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	地震当時海中に没せりと誤報せられし江の島は地盤一帯に岩なりし為め被害比較的軽微なりしも対岸と連絡の唯一の桟橋は津波の為めに浚はれて非常なる窮境に陥れり図中一列の杭は桟橋の跡なり
備考	一列の杭が桟橋の跡であることが記されていることから、現在の片瀬橋付近から江の島大橋方向に江の島を望む位置の写真と推察されます。砂浜の施設の映り込みをできるだけ避けて、同方向と思われる場所から撮影しました。

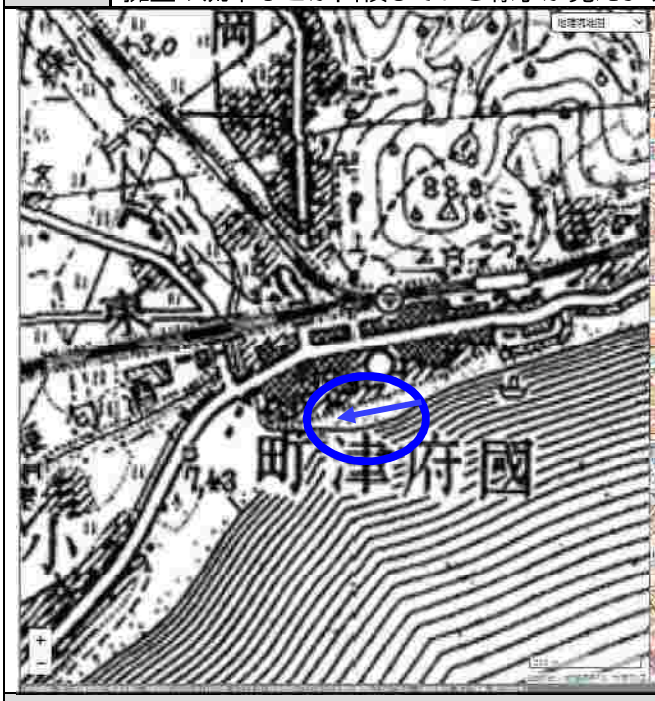
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（33）国府津海岸（小田原市国府津）

被害	津波	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時は風光明媚な海岸として知られた国府津町の海岸一帯では、石積みの擁壁が倒壊し、倒壊した擁壁や流木などが山積している様子が見えます。現在は西湘バイパスが沿岸を走ります。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	風光明眉なりし国府津町海岸一帯も亦図の如く破壊せられたり
備考	国府津町で海岸近くまで住宅が迫っている付近を東から西に向かって撮影したと推察されます。現在は西湘バイパスが海岸部を通過しています。

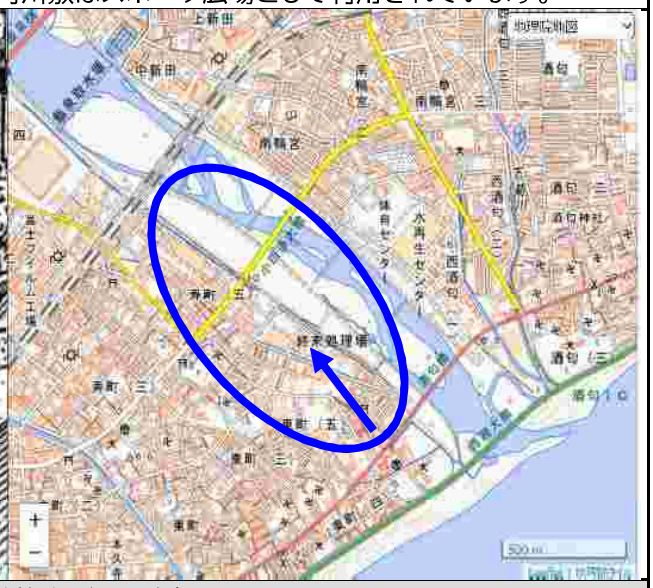
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（34）酒匂川（小田原市東町周辺）

被害	堤防被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	酒匂川河口付近では、地震により堤防が壊れ、河川の水が溢れました。当時の写真では土のうを積み重ねて対策をしている様子が見えます。現在河川敷はスポーツ広場として利用されています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	酒匂川河口附近の堤防潰滅し地震後の洪水氾濫せる痕にして図中土俵を積み重ねたるは舊堤の位置なり
備考	写真右奥のトラス橋は東海道本線酒匂川橋梁であり、左奥には山地の遠景が認められることから、国道1号線酒匂川橋より上流右岸側から北西方向（上流向き）を撮影したものと推察されます。現在の写真には鉄道橋との間に架橋された小田原大橋が写っています。

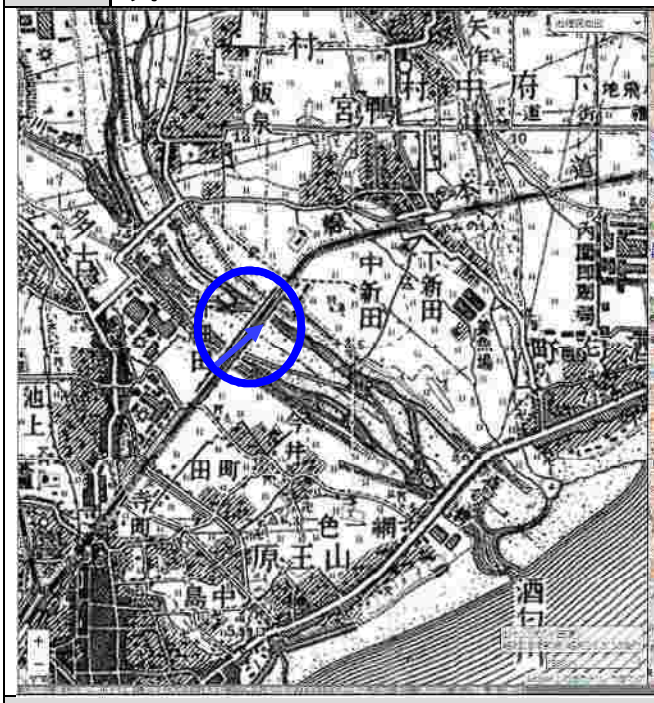
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（35）酒匂川鉄道橋（小田原市酒匂地先）

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	C	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	上下の激しい地震の揺れにより、写真奥側に鉄橋の一部が橋脚間の橋桁が河川に転倒落下している様子が見えます。しかし他の施設はほぼ被害無しでした。現在も同じ場所に架け替わった橋があります。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	鉄道熱海線中酒匂川に架せる鉄橋中の径間は図の如く堅固なる橋台上を辷りて河中に顛覆せり、以て如何に上下動水平動の激しかりしかを想像し得べし
備考	軌道敷内かその近辺から撮影したと推察されますが、現在、同じ場所からの撮影が困難なため、橋梁の全景と同じ方角の写真を掲載しました。

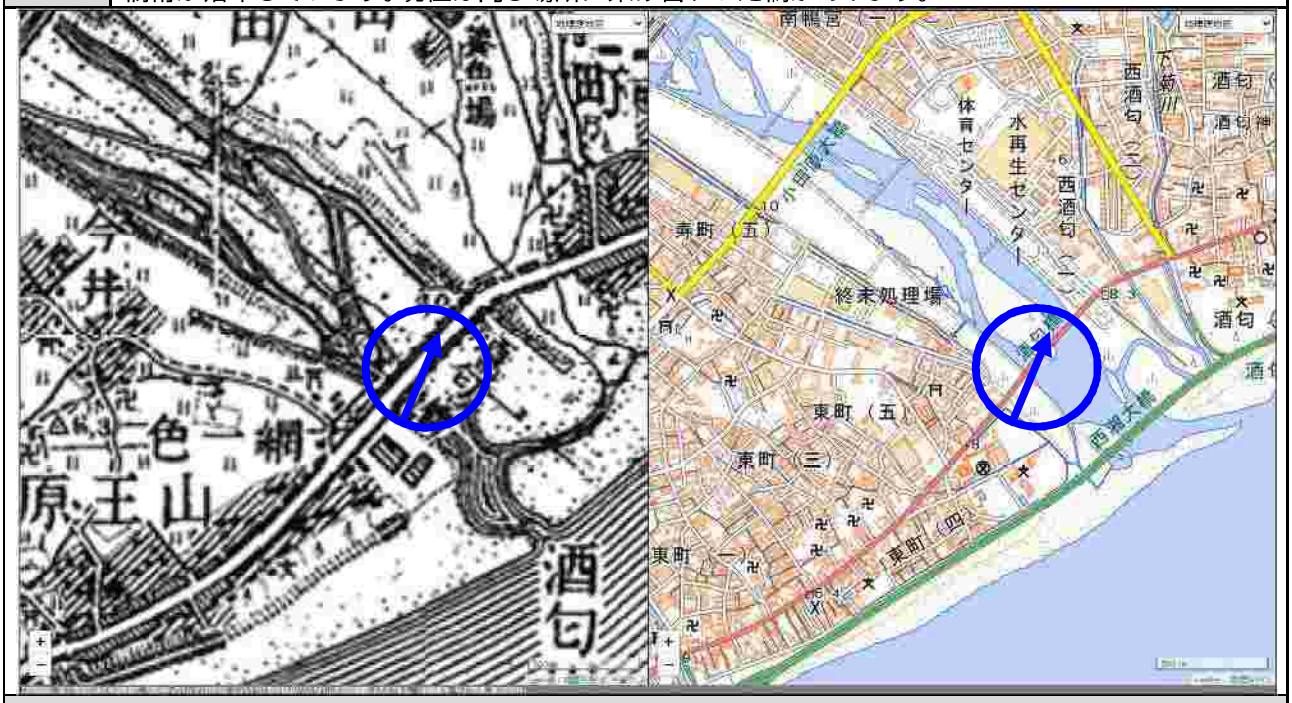
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（36）酒匂橋（小田原市東町地先）

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	当時の酒匂橋は震災数ヶ月前に完成したばかりの鉄筋コンクリート橋でしたが、橋脚部分が失われ、橋桁が落下しています。現在は同じ場所に架け替わった橋があります。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	国府津、小田原間の国道橋にして震災数ヶ月前に漸く完成せる一大鉄筋混凝土橋なり
備考	写真奥に山地が見えることから、酒匂川右岸から北東向きに撮影されたものと推察されます。同じ方向と思われる場所で撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（37）山王橋（小田原市浜町地先）

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	元々電車が通っていた国道1号線上の山王橋は、写真右側の人が通行できる橋は残ったものの写真中央の橋は左右に大きく曲がり、崩落してしまいました。現在も架け替わり国道1号線上の橋梁として利用されています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	小田原町の東入口にある国道橋にして元は電車を通せしものなり
備考	写真中央のブロック積み擁壁はおそらく左岸側のものと推察されますので、右岸側から左岸を向いて撮影したものと考えられます。同じ方向と思われる場所で撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(38)下曽我停車場(周辺)(小田原市曽我別所)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	御殿場線(当時は東海道線)下曽我駅前の様子です。周囲一帯の建物はほぼ全て揺れによる倒壊被害を受けています。現在の下曽我駅北側はバス停や店舗が並びます。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	東海道線下曽我停車場停車場前の惨状にして此附近は地震最も激しく家屋の倒壊せざるもの絶無とも云ふべき程の被害を受けたり
備考	画像内に線路敷はありませんが背景に山が見えることから、駅舎側から北東方向を撮影したものと推察されます。背景の山の稜線の形を参考にして撮影しました。

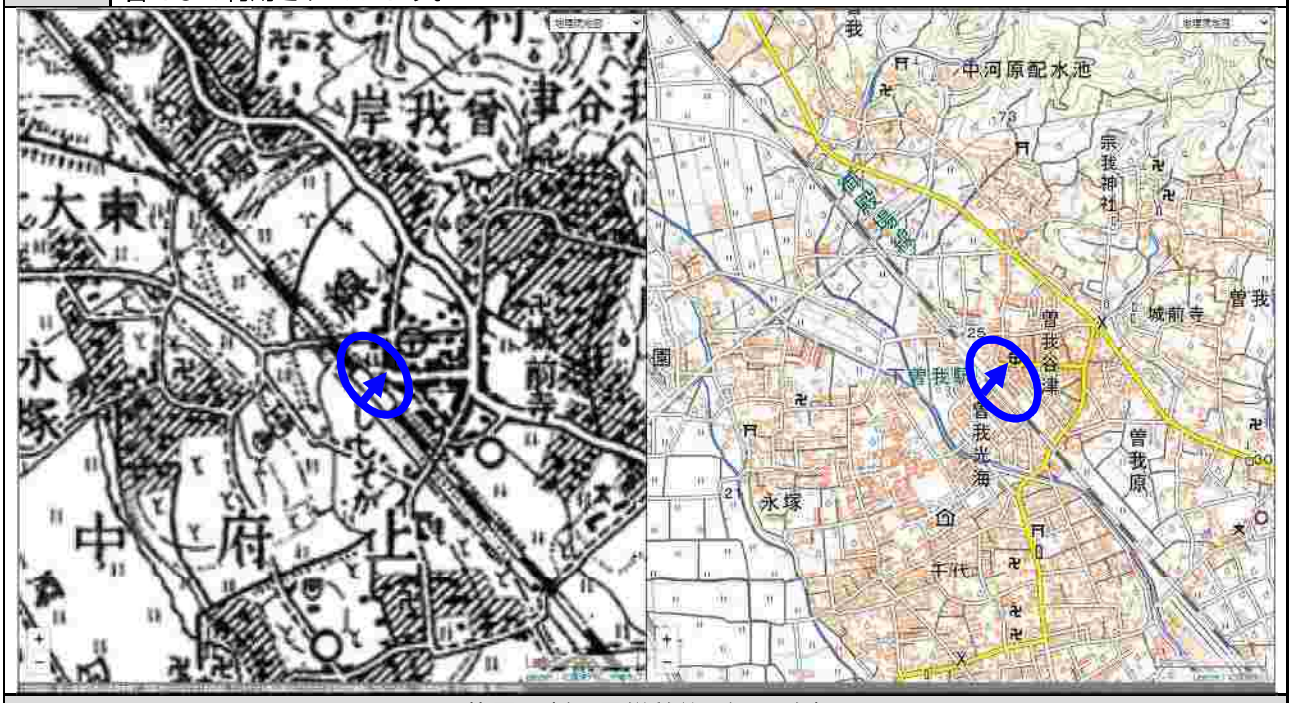
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(39)下曽我停車場(構内)(小田原市曽我別所)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	御殿場線(当時は東海道線)下曽我駅の構内の様子です。揺れにより、駅舎は跡形もなく、階段も崩壊している様子が見えます。地下深く埋没する惨状だったようです。現在は再建され、御殿場線の駅舎として利用されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	下曽我停車場構内の破壊せられたる混凝土階段にして激震の程察するに余りあり
備考	階段の場所は変わっている可能性があるため、駅舎全景と駅舎からの風景を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(40)小田原警察署(小田原市本町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	写真左手前の当時、木造2階建てであった小田原警察署は揺れにより1階部分が潰れています。奥の建物も低層部分が倒壊している様子が見えます。現在警察署は移転し、その他建物も建て替わっています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	小田原地方は地震の程度最も激しくして加速度五千ミリ以上に達せりと迄称され従つて被害甚だしく本図は其一例にして木造二階建の警察署が潰れて平家となれるを示す
備考	明治期の迅速測図によれば警察署は国道1号線の北側にあります。また、博物館HPの資料では、写真中央の倒壊した瓦屋屋根の建物は有名な外郎屋と書かれています。したがってこの写真は当時の小田原警察署の西側から東向きに撮影したものと推察されます。

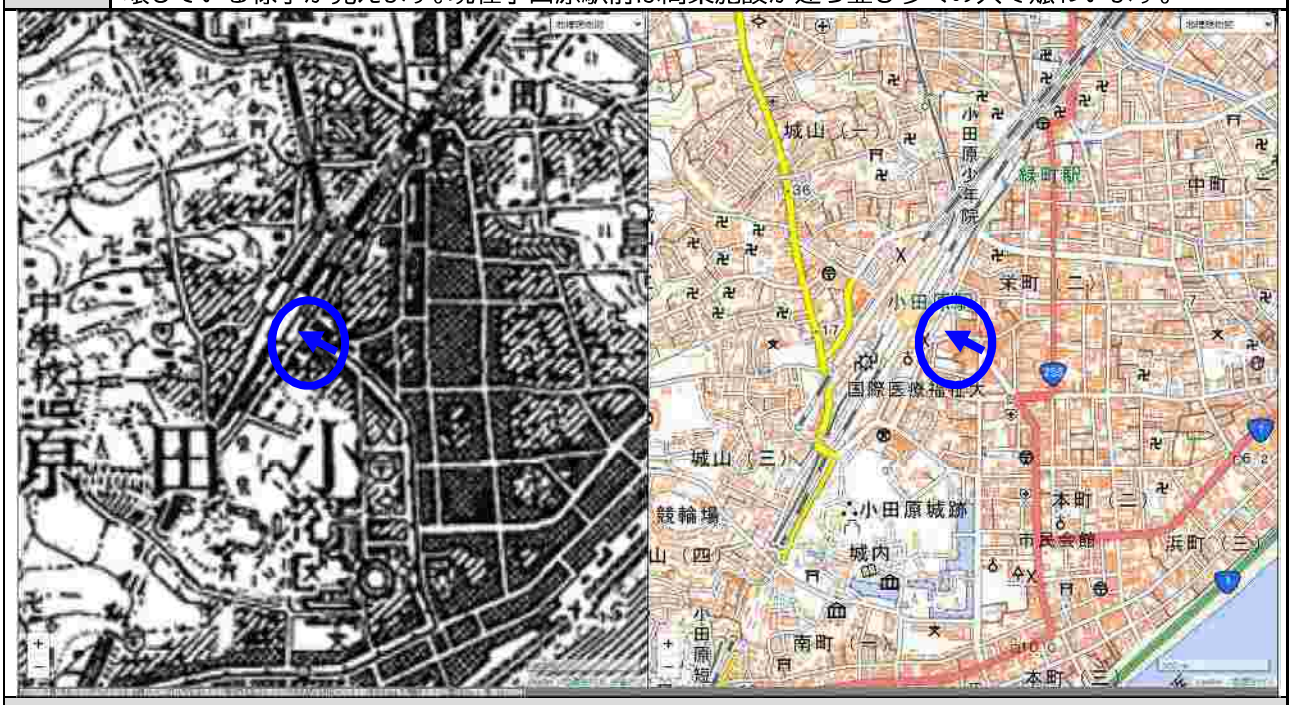
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(41)小田原停車場前(小田原市栄町)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	震災当時も小田原駅前は店舗が数多く存在しましたが、揺れにより駅舎を含む周囲一帯の建物が倒壊している様子が見えます。現在小田原駅前は商業施設が建ち並び多くの人で賑わいます。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	小田原停車場前は箱根の玄関なる為め鉄道開通するや駅前には数多の茶店待合所等軒を並べ殷賑を極めたり図は之等の新建築倒壊の惨状なり
備考	現在は建物が多く建ち、当時と同じ場所、方角での撮影が難しいため、駅舎ビルとその前景が写るよう撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(42)小田原町(小田原市本町)

被害	地盤変動	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	小田原城の構内には地割れにより小池ができ、お堀の石垣は崩壊してお堀沿いの桜並木は転倒しています。堀、桜並木とも再建されています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	小田原舊城址濠の端桜並木の倒れたる有様なり
備考	お堀沿いの桜並木は、お堀側に転倒したものと推察されますので、桜並木の右側がお堀となるように撮影しました。

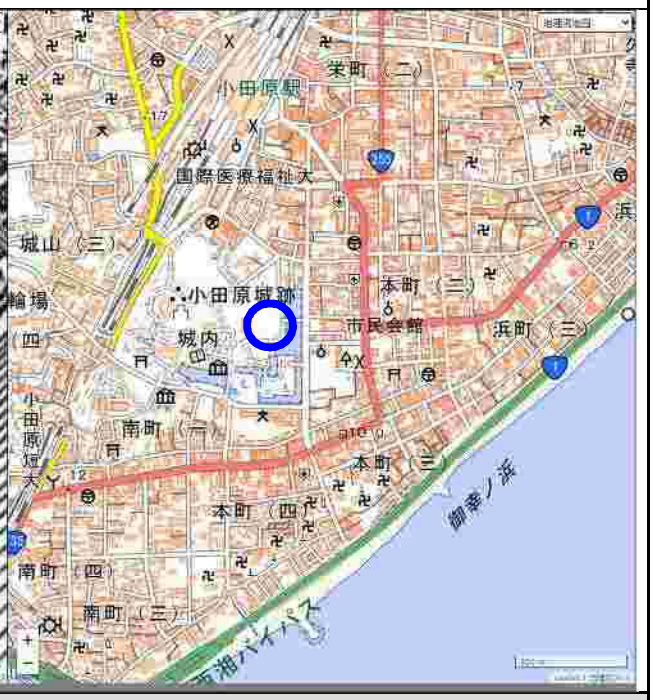
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(43)小田原町(小田原市城内)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	小田原城跡内に建てられた御用邸は、1901(明治34)年に建て替えられたものでしたが、地震によりほぼ全壊しました。震災により御用邸が大きく被害を受けて、その後御用邸は廃止、現在は広場となっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	小田原舊城址にして現在は御用邸となれる建物の一部が濠口に倒潰せるものなり
備考	撮影場所は不明のため、現在の広場の様子と歴史を記載した看板を掲載しました。

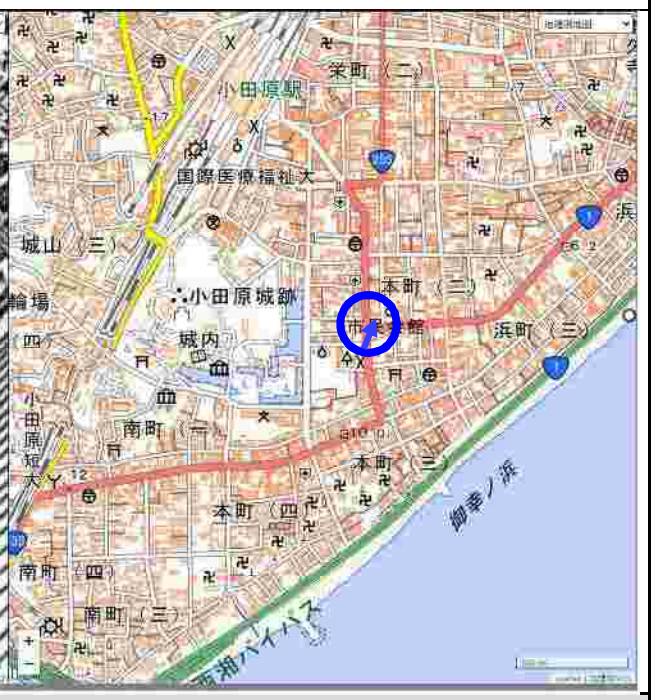
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(44)小田原町(小田原通商銀行)(小田原市本町)

被害	火災	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	当時の小田原通商銀行は、鉄筋コンクリート構造で建築中に震災にあい、かろうじて躯体は留めるものの、小田原城の東部一帯に拡がった火災にも遭いました。現在は建て替えられて銀行として利用されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	幸町にある小田原通商銀行にして恰も鉄筋混凝土建築工事中災害に遭遇せるものにして火災をも被れり
備考	左写真の建物は、小田原通商銀行本店でしたが、その後1924(大正13)年小田原実業銀行本店、1927(昭和2)年には明和銀行本店となりました。現在の建物(右写真)は、明和銀行本店として1928(昭和3)年に建てられたもので、その後横浜銀行小田原支店として使用された後、現在は中央労働金庫小田原支店として使用されています(横浜銀行HPより抜粋)。

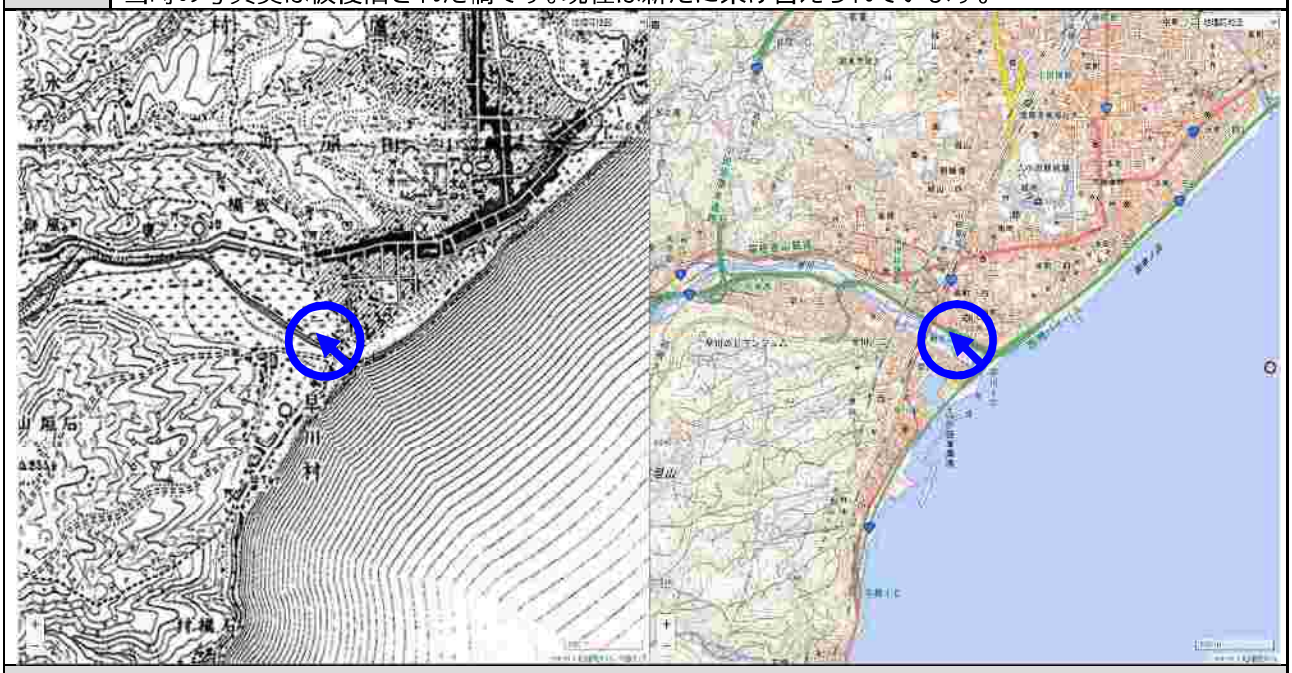
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(45)早川橋(小田原市早川地先)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	早川にかかる早川橋は当時、鉄筋コンクリートの橋でしたが、橋桁が落橋し、折れてしまっています。当時の写真奥は仮復旧された橋です。現在は新たに架け替えられています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	小田原より熱海に達する所謂熱海県道中小田原の西端早川の河口に近く架けられたる鉄筋混凝土の桁橋にして図は墜落せる舊橋を利用して仮橋を架けたる有様なり
備考	遠景に山体が見えることから、右岸側の橋よりも下流から、上流(北西方向)を向いて撮影したものと推察できます。現在の様子は、方向をおおむね合わせて撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(46)石橋鉄橋(小田原市石橋)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	谷にできた石橋地区の集落をまたぐように設置された鉄橋は、山側(西側)の橋げたは落下せず残りましたが、海側の橋げたはほとんどが落橋しています。また、橋脚の根元が破断している様子が見えます。現在も「石橋鉄橋」として親しまれています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	鉄道熱海線中の大鉄橋の一にして早川駅付近の片浦村石橋部落上を横切りて架設し竣功後幾何もなくして災害を蒙れり(全景) 百尺に近き大橋脚も根部にて切断され上部は回転せる様物凄し
備考	右の橋げたが落橋していること、ゆるやかに写真右に向かってカーブしていることから、熱海方(南)から小田原方(北)を向いて撮影したものを推察されます。

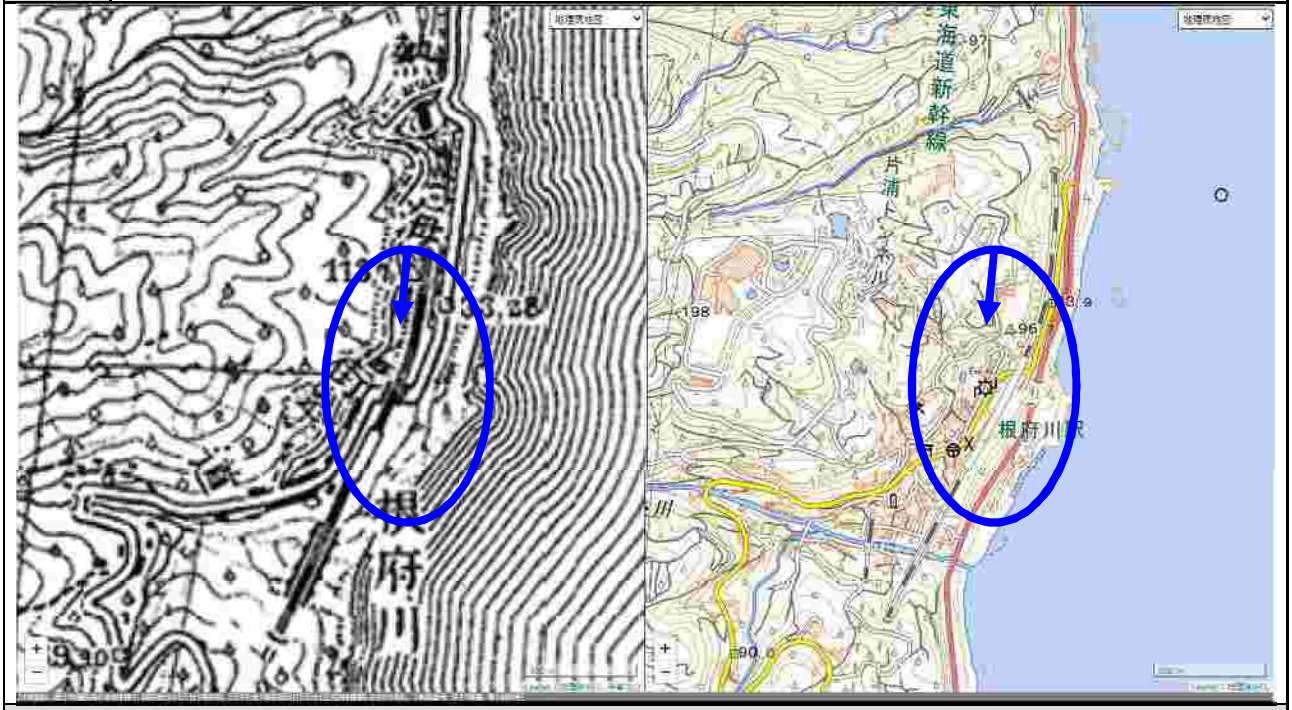
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（47）根府川停車場（小田原市根府川周辺）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	根府川駅周辺では大規模な土砂崩れが発生し、駅は土砂に埋もれ、人家も流出して、甚大な被害が発生しました。現在はJR根府川駅を中心に集落が形成され人々が暮らしています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	震災地の中最も被害激甚なりしは根府川なりとす、図は根府川停車場附近の山崩れにして左部下方岩石の累々たる邊は停車場の埋れたる場所、中央の人家は何れも右方より押し出されたるものなり
備考	写真左側が海であることから、根府川駅北側の高台から南向きに撮影したものと推察できます。同じような方向で撮影しました。

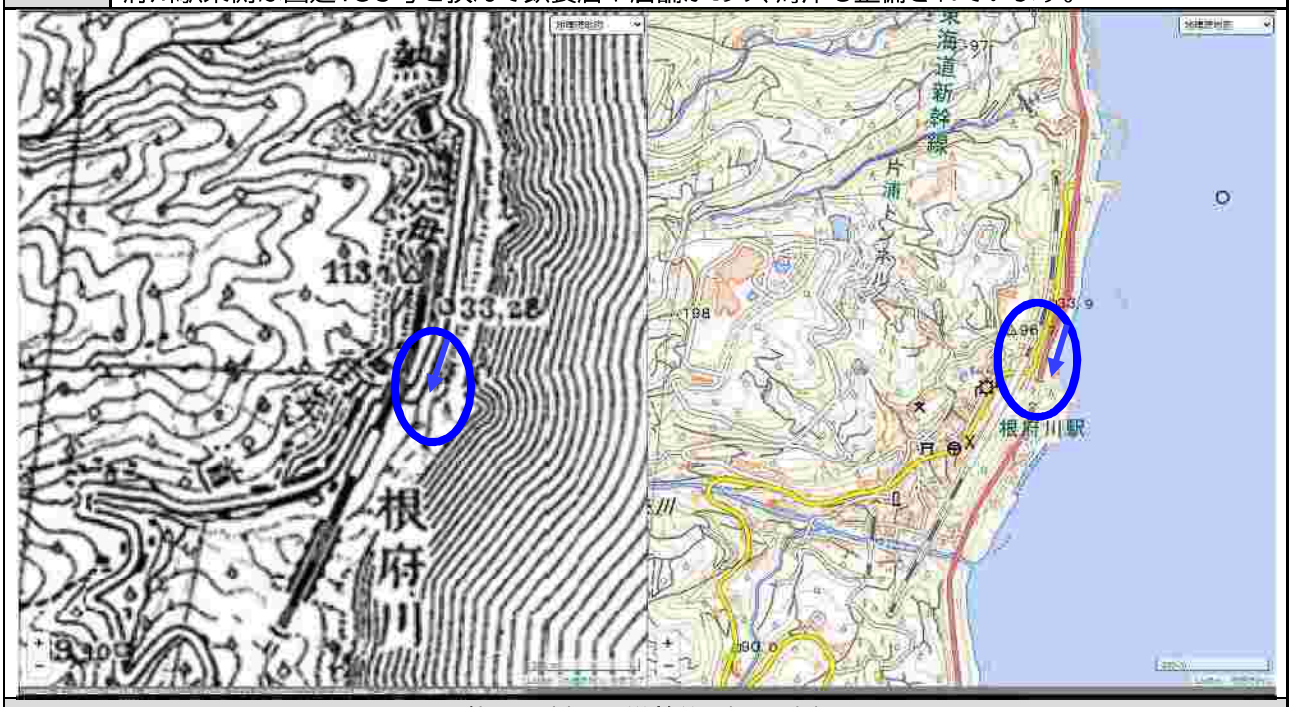
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(48)被害列車(小田原市根府川)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	根府川駅に入ろうとした列車は駅もろとも土砂に押し流され海中に没しました。写真はその車両の一部とみられます。列車の乗客、駅やホームにいた旅客や駅職員に甚大な犠牲が出ました。現在、根府川駅東側は国道135号を挟んで飲食店や店舗があり、海岸も整備されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	根府川駅にて上り列車と交換すべく進行し来れる下り列車は将に駅に入らんとして地震に遭遇し恰かも海岸の断崖上なりし為列車は全部海中に墜落し大部分其行衛を知らず。図は其中の一客車なり
備考	根府川駅に到着する直前の下り列車なので、根府川駅よりも小田原方(北側)で、しかも海岸の断崖上だったため海に転落したものと書かれていますから、根府川駅とトンネルとの間の区間にいた下り列車が転落したものと推察されます。現在の写真は、根府川駅下の海岸付近の様子を撮影しました。

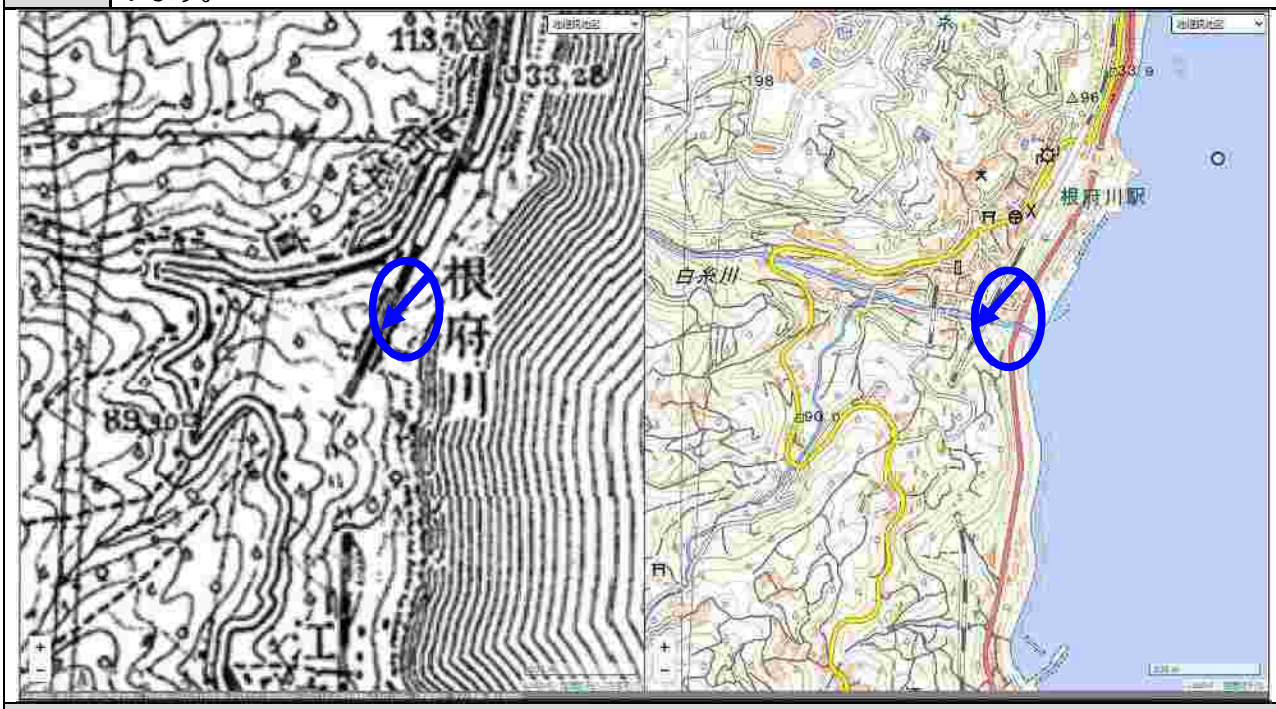
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（49）白糸川鉄橋（小田原市根府川）

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	JR東海道本線「根府川駅」の南にある白糸川橋梁は、震災の前年に完成したところでした。橋は地震の揺れと土砂災害により流されて墜落しました。現在は架け直され「白糸川橋梁」として親しまれています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	鉄道熱海線中の一大橋梁にして根府川部落の空を横断して架けられ頗る壮観なりしも竣成後幾何も無くして地震と山津波の為め墜落し遠く海中に運び去られたり、図中手前なるは墜落せる残留鉄橋、中央上部は対岸の隧道に、中部は残留せる橋脚の根部なり
備考	写真奥の斜面にトンネルとの記載から、白糸川の左岸（北側）から右岸（南西）を向いて撮影したものと推察できます。現在は同じ場所、画角での撮影が困難なため、西側のトンネル方向と橋梁全景を撮影しました。

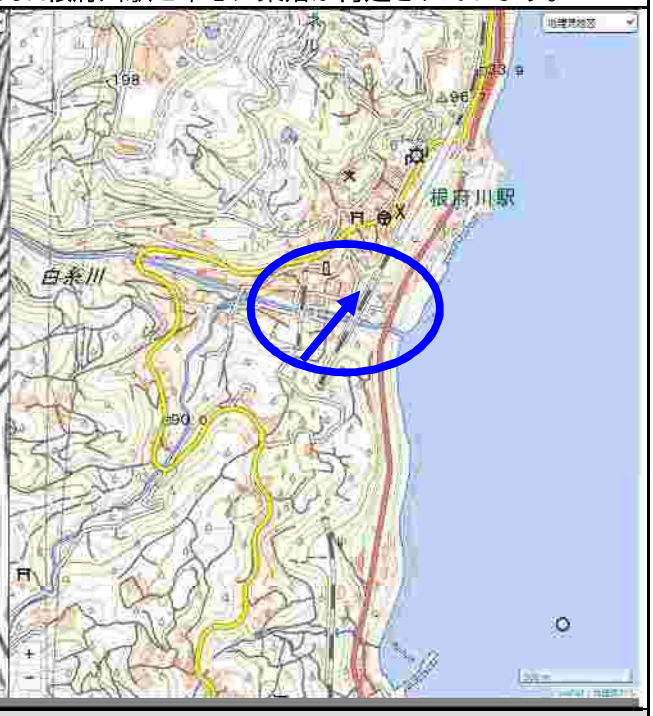
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（50）根府川（小田原市根府川周辺）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	根府川集落は地震の揺れによる被害は多くなかったものの大規模な土砂災害により、集落の多くが飲み込まれ、甚大な被害を受けました。現在はJR根府川駅を中心に集落が再建されています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	根府川停車場及び部落の全景を対岸より眺めたるもの
備考	白糸川右岸側の山から撮影したもの推察されますが、詳細は不明のため、同じ方向と思われる場所で撮影しました。

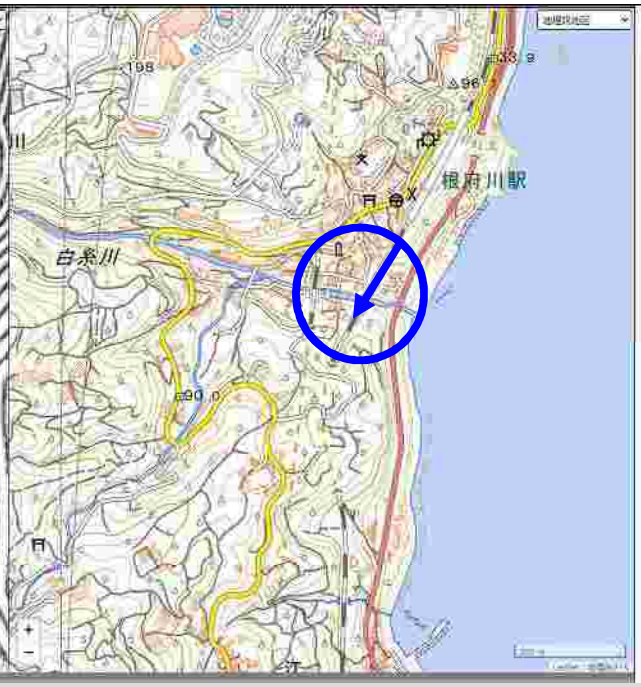
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（51）被害列車（小田原市根府川）

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	JR東海道線「根府川駅」の南、白糸川鉄橋を南に渡ったところにあるトンネルを北へ抜けた鉄道は、土砂災害により先頭車両が埋もれてしまいましたが、トンネル内に車体が残っていた客車は無事でした。現在の写真は根府川駅からトンネル方向を撮影しています。



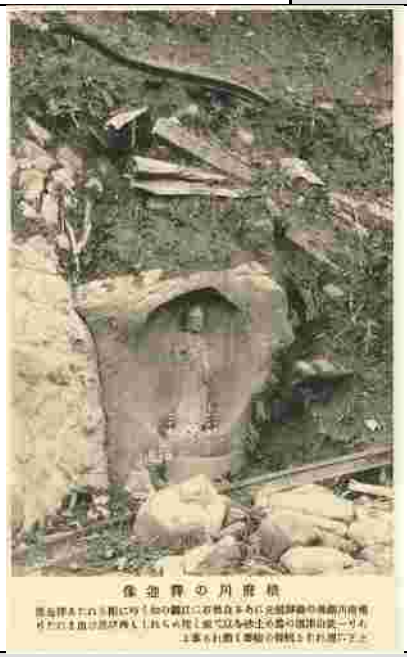
位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	地震の際恰かも根府川駅に入らんとせし上り列車は墜道より僅かに汽罐車のみ出でし時遭遇せる為め汽罐車は墜道口の崩壊により埋められしも客車は全部墜道内にて無事なるを得たり
備考	当時の写真は軌道敷き内で撮影したものと推察されますが、撮影場所への立入は困難なため、同じ方向と思われる場所で撮影しました。なお、当時鉄道熱海線は真鶴駅までの開業だったため、上り列車の機関車は後ろ向きで連結して運行されていたようです。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

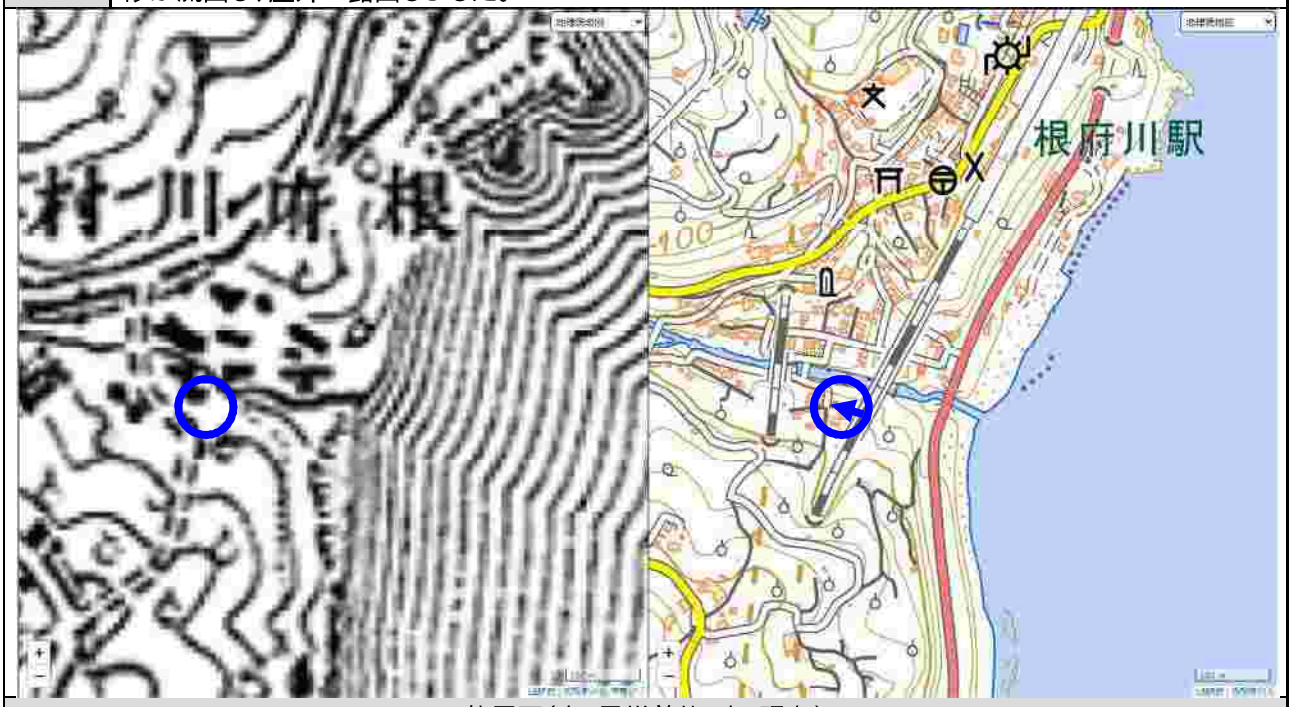
（52）根府川の釈迦像（小田原市根府川）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖



写真（左：震災当時、右：現在）

説明	白糸川橋梁の橋脚の根元に安置された釈迦像は今も残りますが、当時は土砂災害により、周囲の土砂が流出し、屋外へ露出しました。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	府川鉄橋の橋脚根元にある自然石には図の如く巧に彫られたる釈迦像あり一度山津波の為め土砂を以て深く埋められしも再び洗い出されたり上下に埋れたる軌條の物凄く曲れる事よ
備考	当時は屋外に露出していましたが、現在は堂内の様子を撮影しました。

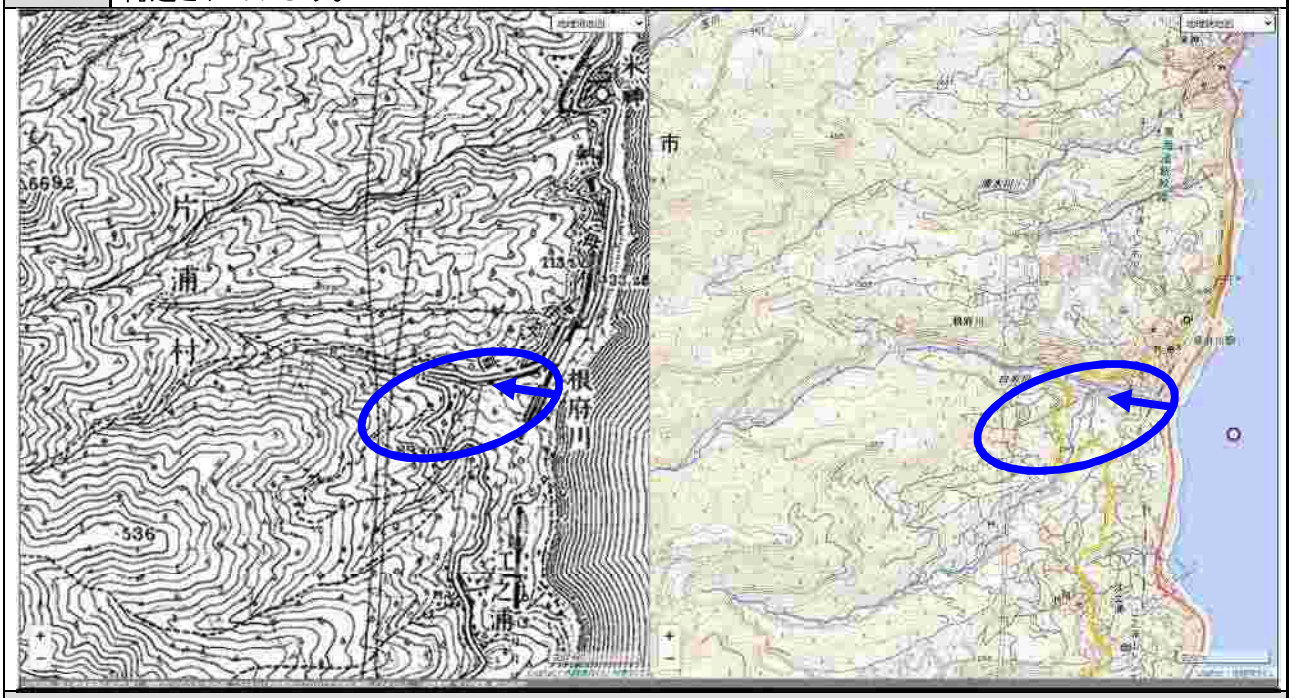
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（53）根府川（小田原市根府川周辺）

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	今では白糸川の河道も当時と変わっていますが、白糸川に沿って流下した土石流により、地震から数分で根府川集落の大部分は埋没し、甚大な被害となりました。現在はJR根府川駅を中心に集落が再建されています。



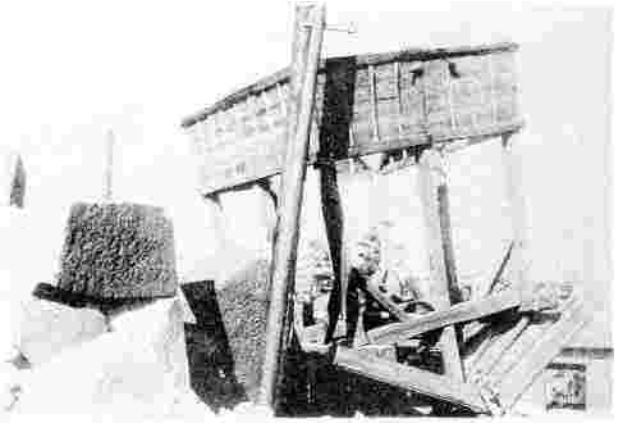
位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	片浦村根府川部落は大地震後僅々数分間にして十数町の山奥より押し出されたる山津波の為め殆んど全部を埋没せられたり、図中右手の人家は埋没して漸く屋根のみを露はせるもの、中央遥かの山は山津波の発生地なり
備考	土石流は、根府川駅を巻き込んで発生していることから、土砂崩壊が起きている写真右側は、白糸川左岸であり、そこから上流右岸を向いて撮影したものと推察できます。ただし、撮影地点場所の特定ができなかったため、左岸斜面の集落と白糸川上流側が写るよう撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（54）倒壊せる小田原幸町の鐘楼（小田原市本町）

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	神奈川県震災誌



写真（左：震災当時、右：現在）

説明	江戸時代には小田原城の正面玄関にあたる大手門にあった朝夕6時に時を知らせる鐘楼が地震により倒壊しました。小田原城の東部一帯は火災にも遭いました。現在は市街地の一角に鐘楼の遺構が再現されて残されています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	倒壊せる小田原幸町の鐘楼
備考	撮影方向は不明のため、現在残る鐘楼の様子を撮影しました。

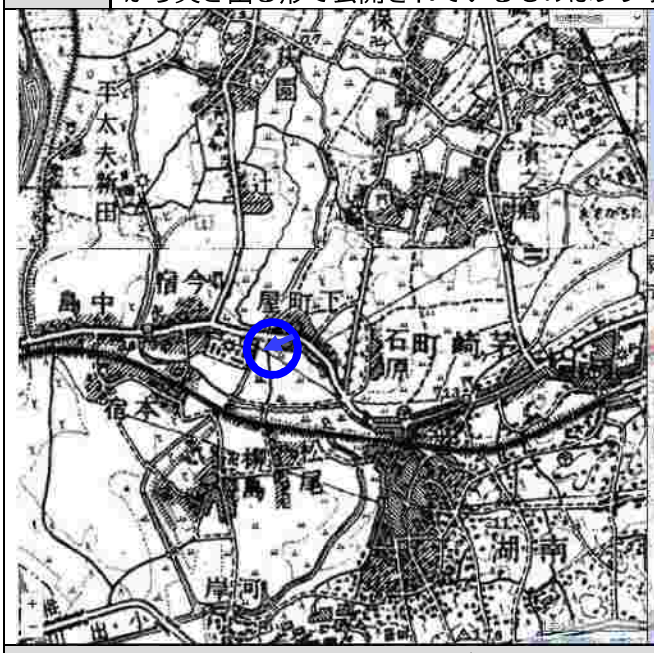
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

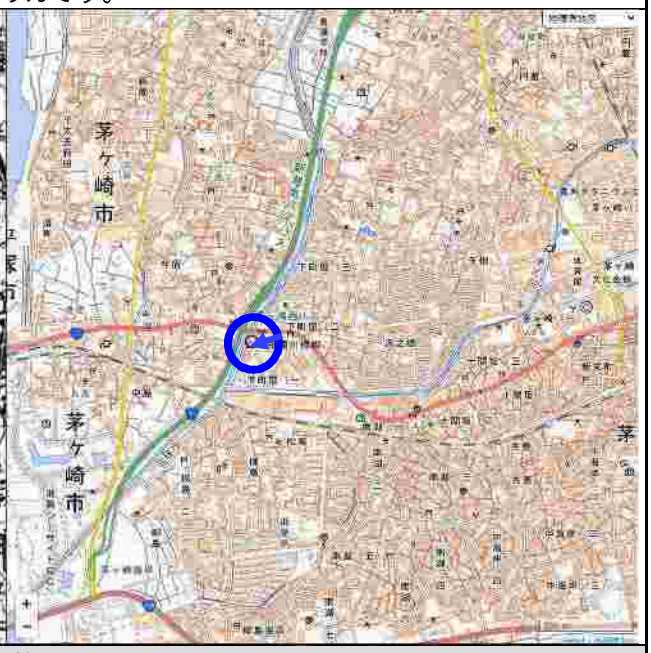
（55）震災に因りて出現したる古相模橋の橋脚（茅ヶ崎市下町屋）

被害	液状化被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正大震火災誌

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	関東大震災とその翌年1月の余震による液状化によって、鎌倉時代に架けられた橋の遺構と思われる橋杭が水田に出現しました。現在も国の史跡・天然記念物としてその遺構は保存されています。池から突き出る形で公開されているものはレプリカです。





位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	震災に因りて出現したる古相模橋の橋脚
備考	当時の橋脚の並びと近い構図で撮影しました。

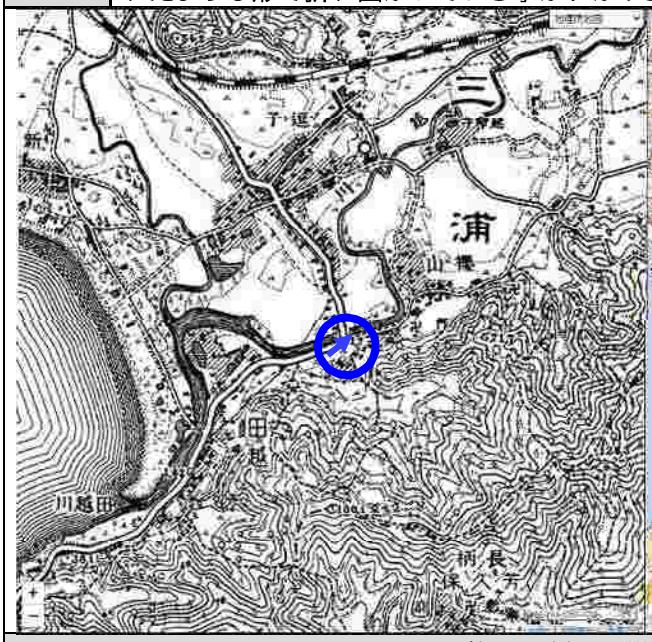
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（56）逗子町田越橋の破壊（逗子市桜山地先）

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正大震火災誌

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	地盤の隆起が発生した現逗子市の田越橋は、橋桁の崩落こそ起こっていませんが、左右岸から押されたような形で折れ曲がっている事がわかります。現在は架け替わった橋が残っています。



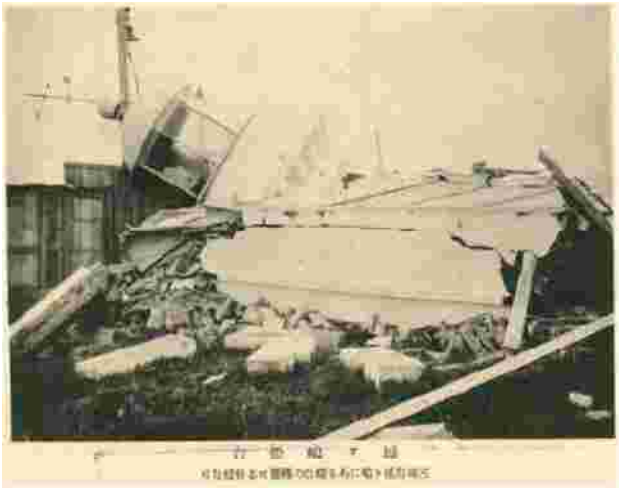
位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	逗子町田越橋の破壊
備考	当時の道路脇から撮影されていることから、橋の南西側からの撮影と判断し、同じ方向に撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

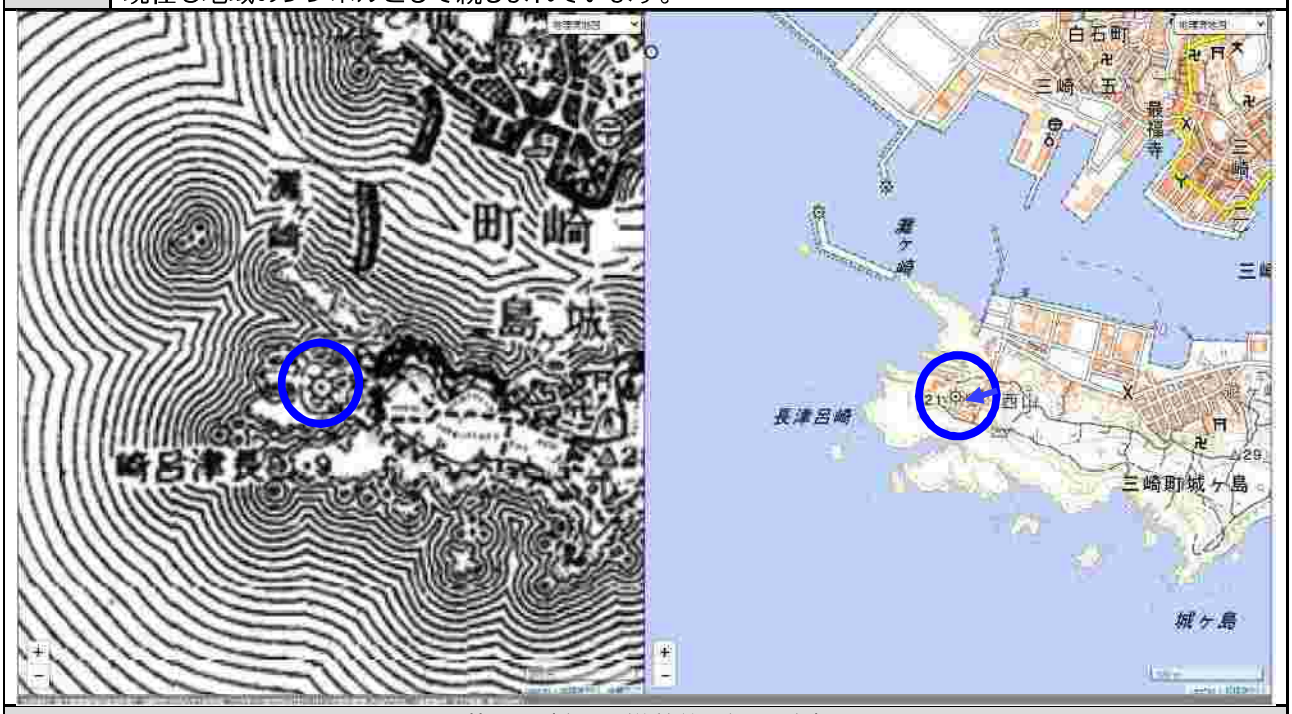
（57）城ケ島灯台（三浦市三崎町城ケ島）

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖



写真（左：震災当時、右：現在）

説明	三崎町城ケ島にある城ケ島灯台は、地震の揺れで完全に倒壊しましたが、3年後に改築されました。現在も地域のシンボルとして親しまれています。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	三崎町城ケ島にある灯台の顛覆せる有様なり
備考	当時の写真の画角とは異なりますが、木々を避けて、建物全景、灯台部の拡大、記念碑を撮影しました。

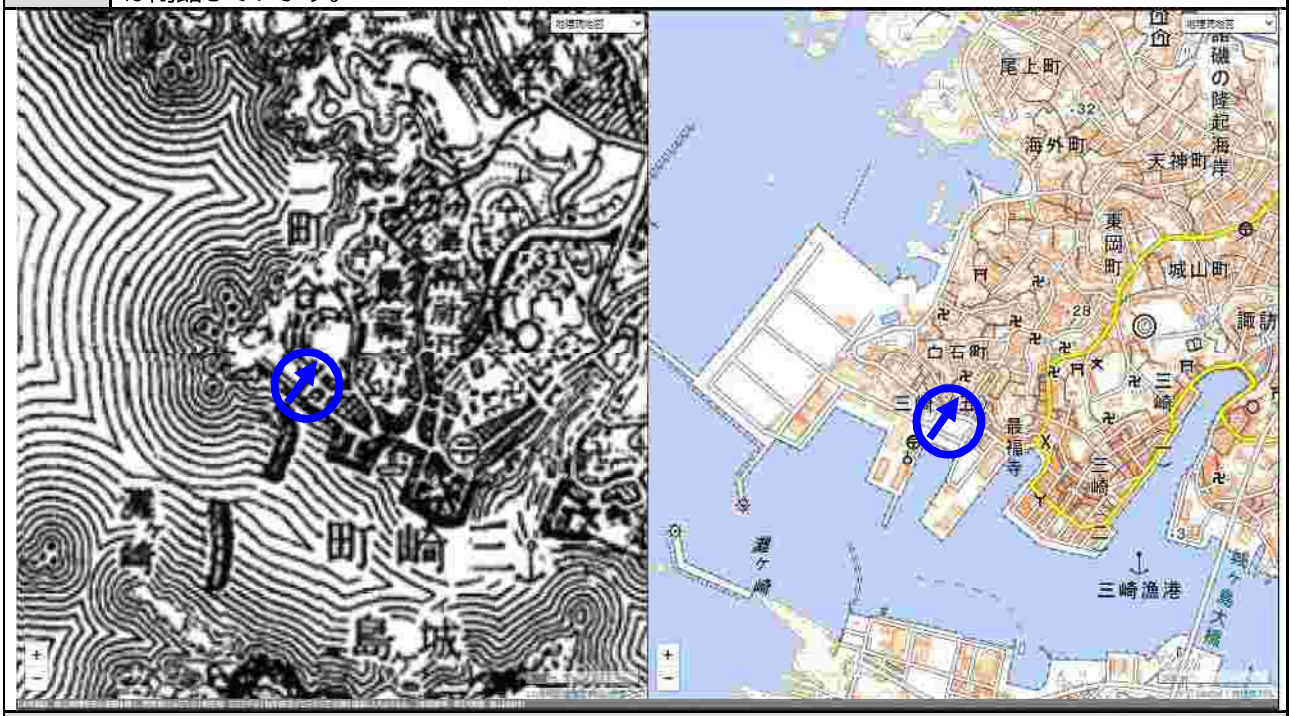
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(58)三崎町(三浦市三崎)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	旅館「岬陽館」付近の建物被害の様子です。海岸に近い旧三崎町では建物の全壊や人的な被害がありましたが、津波による被害はみられませんでした。旅館は建て替えて営業されてきましたが、現在は閉館しています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	三崎町旅館岬陽館附近被害の實状にして右手は則ち同館なり
備考	当時の詳細は不明ですが、坂道に建つ建物であることや、旅館名から場所を推察し、海側から内陸に向いて撮影したものであるものと推察しました。現在の写真は、坂道を参考にして、海側から内陸方面を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（59）秦野町曾屋神社（秦野市曽屋）

被害	宗教施設被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	曾屋神社は、一の鳥居や二の鳥居が倒壊し、樹木も裂けて転倒している様子が見えます。震災当時の写真の右側に見える石碑は現在も同様の場所に立っており、鳥居と石畳は再建されています。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	秦野町の氏神曾屋神社の惨状にして樹木は裂け鳥居は倒るゝ等激震の程想像するに余りあり
備考	転倒した鳥居の奥に見える社殿と、樹木に覆われつつも現存している石碑の位置を基に撮影しました。

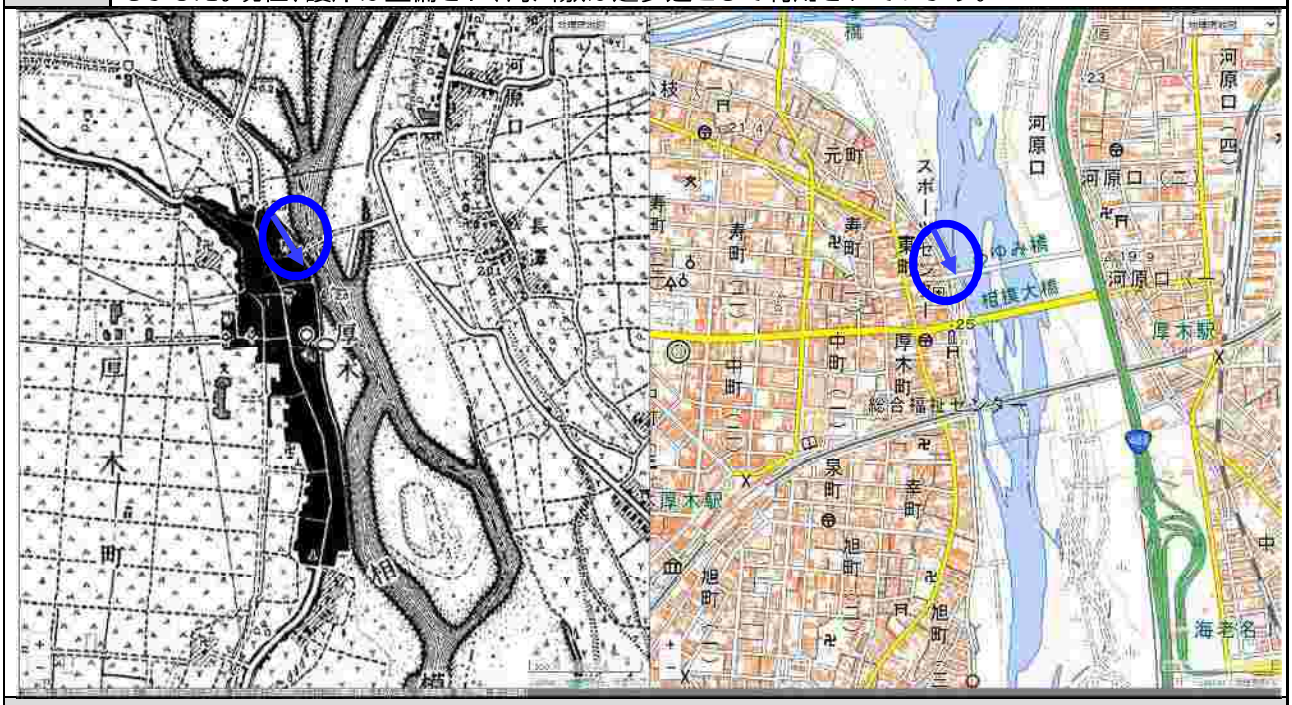
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(60)厚木町堤防(厚木市東町地先)

被害	堤防被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	厚木市と海老名市の境を流れる相模川の河川堤防は、地震の揺れや液状化による被害を受け、崩落しました。現在、護岸は整備され、河川敷は遊歩道として利用されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	厚木町を水害より救ふべく相模川に沿ひて築造せられたる混凝土の堤防も斯くの如く破壊され全く危険状態に陥れり、図は相模橋附近なり
備考	堤防が水域に接していることから、相模川右岸側と推察され、相模橋(現あゆみ橋)上流から下流に向かって撮影しました。

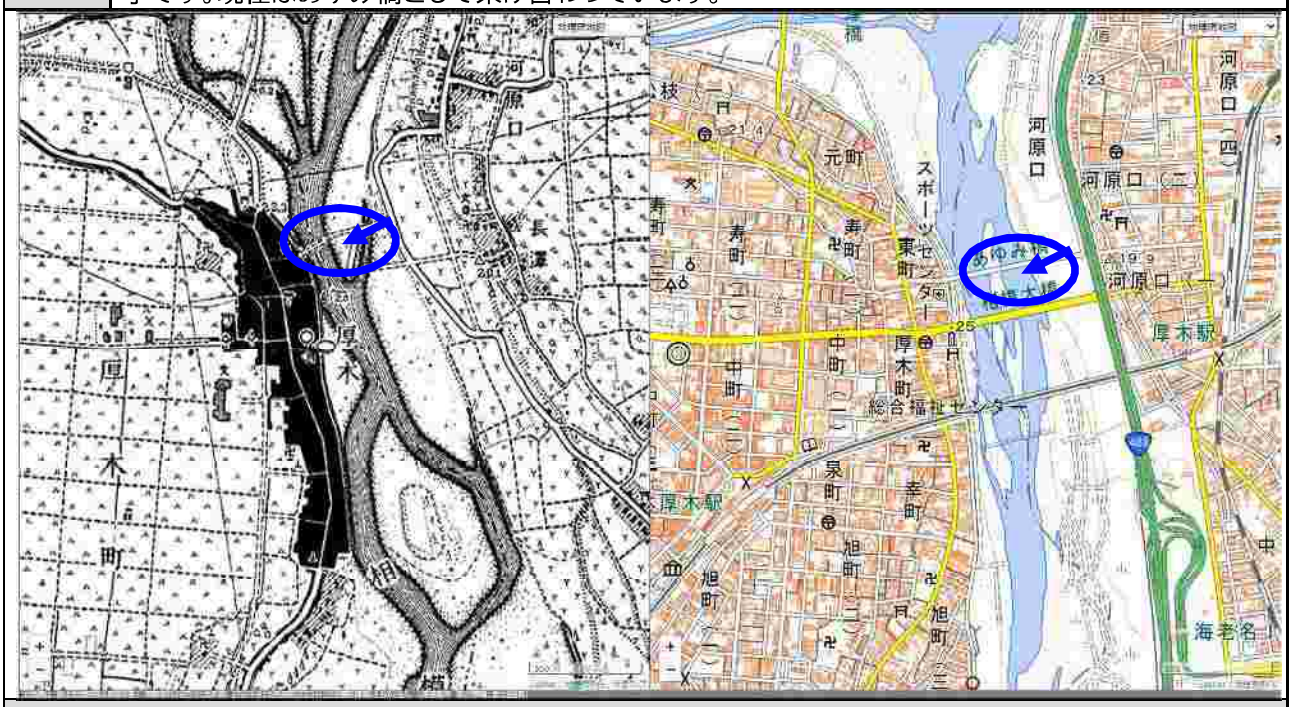
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(61)相模橋(海老名市河原口地先)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	相模橋は中央部の鉄橋部分を残し落橋しました。写真は応急復旧により通行できるようになった様子です。現在はあゆみ橋として架け替わっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	厚木町にて相模川に架せるものにして中央部の鉄橋を残し他は悉く墜落し工兵隊により図の如く応急工事を施し辛じて通行するを得たり
備考	写真手前側が陸域であることと、仮設部の橋脚が7基あり、前出の写真(6基)と異なることから、左岸側相模橋(現あゆみ橋)上流側から右岸向きに撮影したものと推察されます。

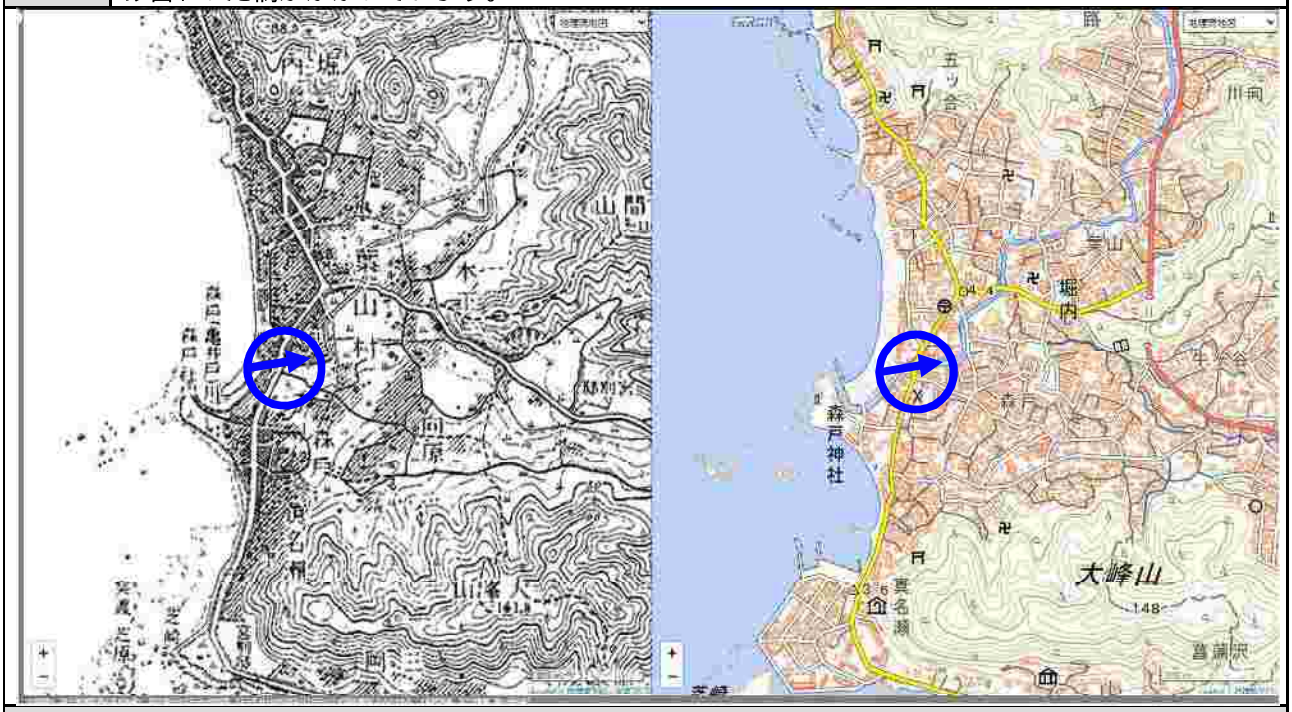
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(62)森戸橋(葉山町堀内)

被害	橋梁被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	鉄筋コンクリート造の橋梁ですが、橋桁はかろうじて残ったものの、橋脚が傾いています。現在は架け替わった橋がかかっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	逗子町にある県道の橋梁にして全部鉄筋混凝土造りなり
備考	写真奥に山が写っていることから、下流(西)側から上流(東)を向いて撮影したものと推察されます。同じ方向に合わせて撮影しました。

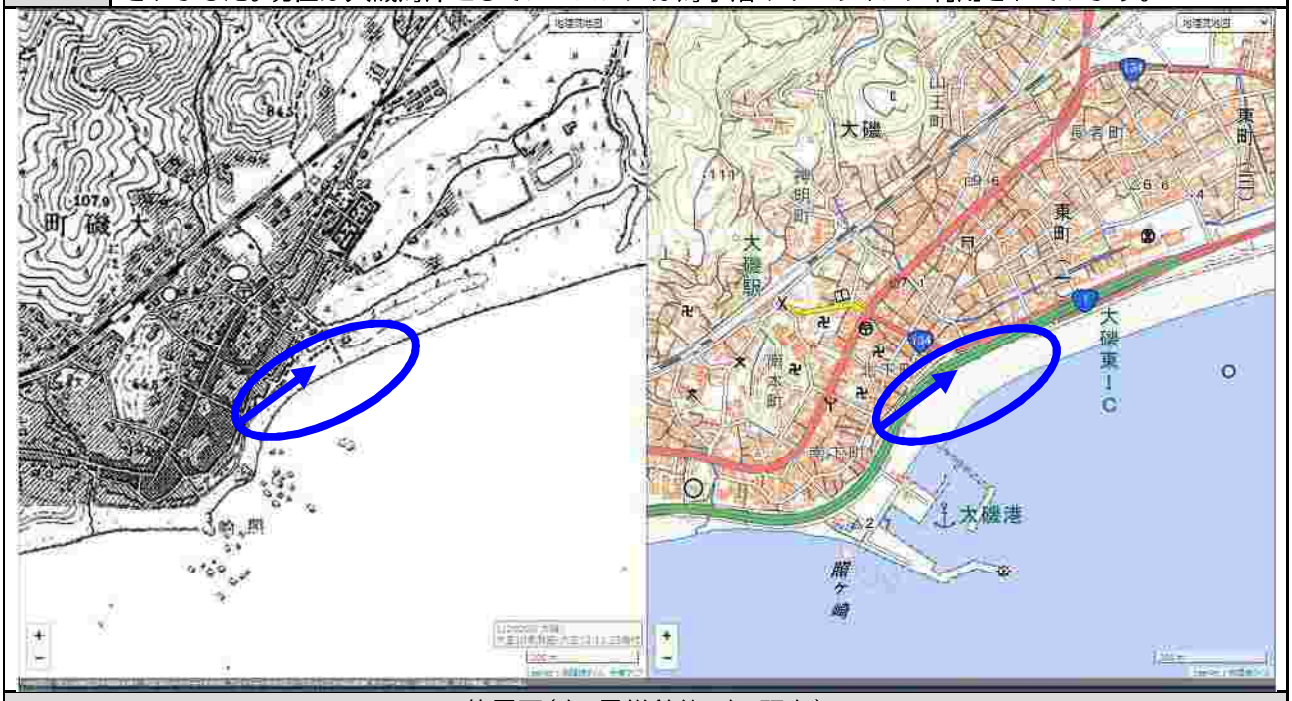
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(63)大磯海岸(大磯町大磯)

被害	地盤変動	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	大磯町の沿岸部は地盤が良好で被害が少なかったようですが、地盤が隆起し、防波堤の一部が破壊されました。現在は大磯海岸としてシーズンには海水浴やサーフィンに利用されています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	海水浴に依り其名を知られたる大磯も亦相当の被害ありたれ共此地は一帯に地盤良好なる為め震度に比し被害の程度軽く海岸線亦約五尺隆起せりと雖も海水浴には支障なし図は仝海岸防波壁の一部破壊せられたるを示す
備考	写真手前に倒壊した防波壁がありますが、当時より砂浜が広がっており、撮影場所が不明のため、写真左に道路、右に海となるよう撮影しました。

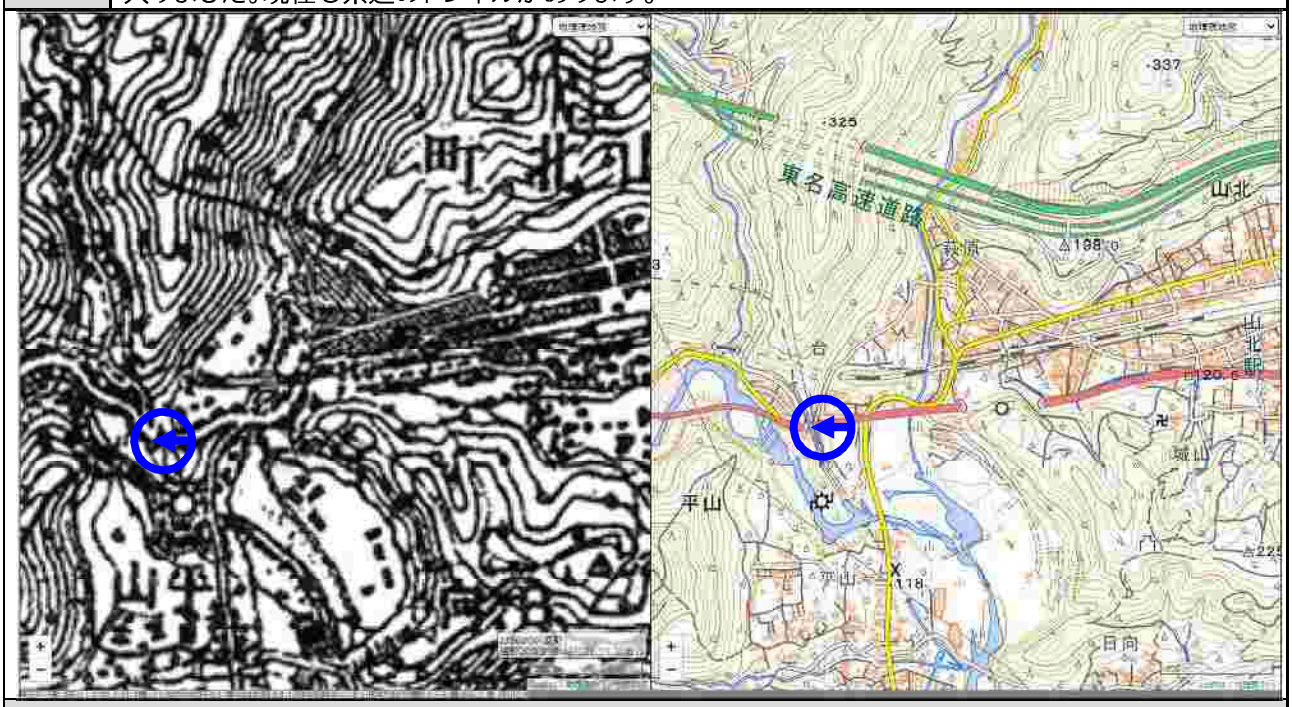
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(64)安戸隧道(山北町山北)

被害	道路被害	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	周辺に重要な関所であった川村関所があった場所で、震災当時は揺れにより、トンネル壁面に亀裂が入りました。現在も県道のトンネルがあります。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	山北駅の西方にある仝所より御殿場方面に通ずる県道の隧道入口に於ける亀裂の様を示す
備考	山北駅の西方にある・・との説明文より、山北駅側の坑口であると推察され、できるだけ近い画角で撮影しました。

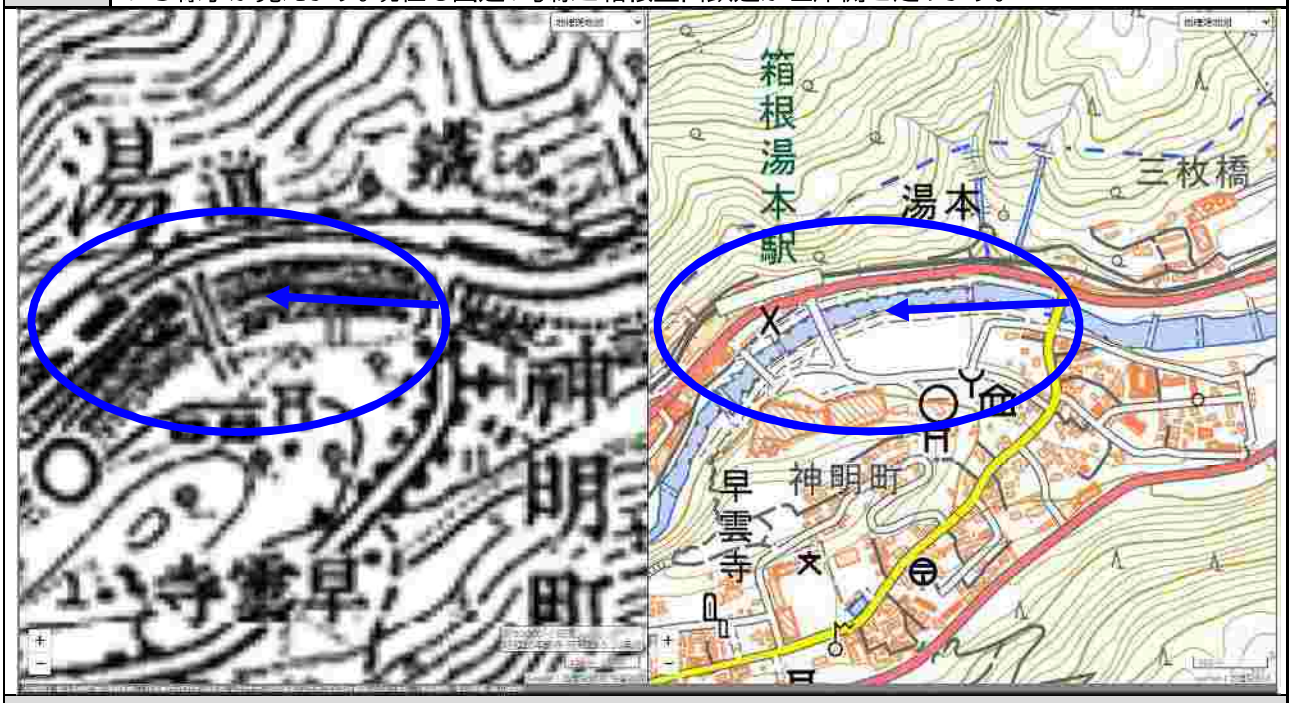
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（65）箱根国道（箱根町湯本）

被害	道路被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	早川にかかる三枚橋から上流を見ると、左岸側（写真右側）の斜面が崩落し、鉄道や国道が埋もれている様子が見えます。現在も国道1号線と箱根登山鉄道が左岸側を走ります。



位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	湯本村三枚橋より上流を眺めたる国道破壊の状況にして前方に見ゆる人家は湯本停車場附近なり
備考	当時の写真に合わせて、早川にかかる三枚橋から、箱根湯本駅にむかって撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(66)塔の澤(箱根町塔之澤)

被害	土砂災害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	箱根の山中では至る所で、土砂や岩の崩落が見られ、温泉旅館環翠楼と塔ノ沢一の湯付近では崩れた岩で道路閉塞が起こりました。現在も交通量の多い国道1号線沿いに温泉旅館は残っています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	国道切通しの崩壊せる有様にして前面の大建築は温泉旅館環翠楼及び一の湯なり
備考	当時の写真左側に道路の迫る斜面があることから、西から東へ環翠楼と一の湯方向を撮影したものであると推察できます。できるだけ近い方向となるように撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(67)箱根ホテル(箱根町箱根)

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	震災直前(1923(大正12)年6月15日)に創業した木造4階建ての箱根ホテル(箱根ホテルHPより)は、地震の揺れで写真のように低層階がつぶれて倒壊しました。その後、1930(昭和5)年の北伊豆地震により再び被害を受けましたが、現在は2022(令和4)年に改装されたホテルが芦ノ湖畔にたたずんでいます。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	箱根町芦の湖畔に聳えたる箱根ホテルは震災直前に竣工せし三階建ての一大西洋館にして大に美観を添へしものなるも斯くの如く倒潰せしは遺憾なり
備考	同じ方向となるように現在のホテルを正面から撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

（68）箱根町（箱根町元箱根）

被害	建物倒壊	ｱｸｾｽ性	B	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真（左：震災当時、右：現在）

説明	かつて元箱根、芦ノ湖畔にあった松坂屋支店、通称富士見ホテルは地震により倒壊してしまいました。富士見ホテルがあった場所は、数年前まで「芦ノ湖美術館」がありましたが現在は建物も解体され、新たにホテルが建設中です（2023（令和5）年8月時点）。

位置図（左：震災前後、右：現在）

原典説明	箱根山上千古の緑を湛へ神秘的なる芦の湖畔絵の如き箱根町も亦地震の為めに深く打撃を蒙れり、図は元箱根富士見ホテルを湖上より眺めたるものなり
備考	過去に芦ノ湖美術館があった場所を踏まえて、湖上より元箱根方向を撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(69)真鶴停車場(真鶴町真鶴)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	現在のJR東海道線「真鶴駅」は、震災の前年に開業し、周辺では鉄道施設のほか集落の家屋も倒壊しました。旧眞鶴村は大火災が発生し、村の大半が焼失し、火災による多くの犠牲者が出ました。現在、駅舎や周辺市街地も整備されています。

位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	震災前鉄道熱海線は真鶴迄開通し本停車場は湯河原熱海方面の客を呑吐し附近一帯盛況を極めしも車の間にて図の如く惨憺たる災害を蒙れり
備考	写真奥側に小山、手前に鉄道となるよう、同じ構図で撮影しました。

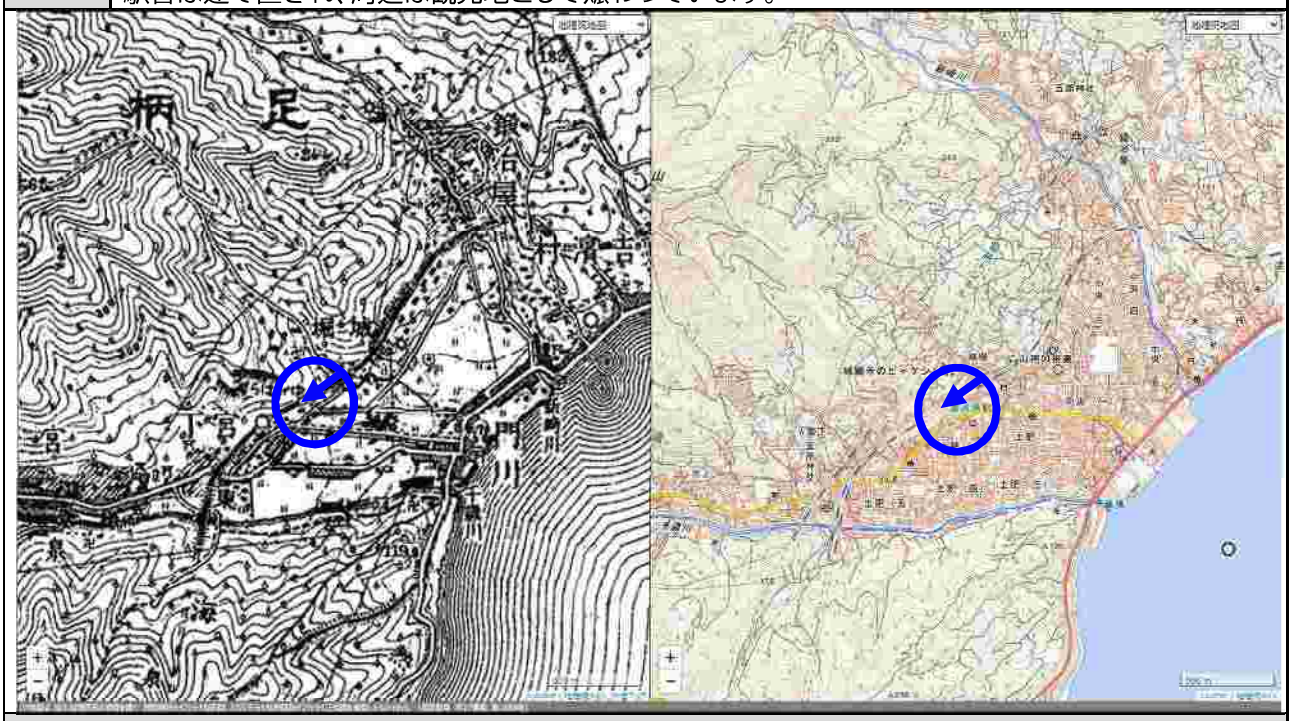
※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載

(70)湯河原停車場(湯河原町宮下)

被害	鉄道被害	ｱｸｾｽ性	A	出典	大正十二年九月一日大震災記念写真帖

写真(左:震災当時、右:現在)

説明	開業間近だった湯河原駅の駅舎は揺れにより倒壊し、線路もバラストや土砂に埋もれました。現在、駅舎は建て直され、周辺は観光地として賑わっています。



位置図(左:震災前後、右:現在)

原典説明	湯河原駅は其新築落成し将に汽車を迎へんとして震災に遭遇せり、図は同駅構内プラットホームの被害及び線路の埋没等を示す
備考	当時の写真は、右側に斜面があることから、小田原方(北東)から熱海方(南西)を向いて軌道敷内で撮影したものと推察されます。現在、軌道敷内からの撮影は困難なため、遠景で駅舎が写るよう撮影しました。

※ 地理院タイルに写真の範囲・方向を追記して掲載